Nikon

デジタルカメラ

COOLPIX L120

クールピクス L120

使用説明書

Jp

商標説明

- Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OSおよびQuickTimeは、Apple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。iFrameのロゴおよびシンボルは、Apple Inc.の商標です。
- AdobeおよびAdobe AcrobatはAdobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標、または特定地域における同社の登録商標です。
- SDXC、SDHC、SDロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- PictBridgeロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

(i) AVC 規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）

(ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。

http://www.mpegla.comをご参照ください。

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しい方法でお使いください。
この「安全上のご注意」は製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
表示と意味は次のようになっています。

⚠**危険**	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。**
⚠**警告**	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
⚠**注意**	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。**

お守りいただく内容の種類を、次の図記号で区分し、説明しています。

絵表示の例	
	△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告（カメラについて）

分解禁止	**分解したり、修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
電池を取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。 電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。
 発光禁止	**車の運転者等にむけてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
 発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影する時は1 m以上離れてください。
 保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
 保管注意	**ストラップが首に巻きつかないようにすること** 特に幼児･児童の首にストラップをかけないこと。 首に巻き付いて窒息の原因となります。
 警告	**指定の電池または専用ACアダプターを使用すること** 指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。
 使用禁止	**ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

⚠ 注意（カメラについて）

 感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
 保管注意	**製品は、幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
 保管注意	**使用しないときは、レンズにキャップをつけて太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
 移動注意	**三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。
 使用注意	**航空機内で使うときは、離着陸時に電源をOFFにすること** **病院で使うときは病院の指示に従うこと** 本機器が出す電磁波などにより、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
 電池を取る プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源（電池やACアダプター）を外すこと** 電池の液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。 ACアダプターをご使用の際には、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
 発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因となることがあります。
 禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。
 放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
 禁止	**付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠危険
（リチウム電池、アルカリ電池について）

電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること
そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
（リチウム電池、アルカリ電池について）

外装チューブをはがしたり、傷を付けないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池を火に入れたり、加熱しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

新しい電池と使用した電池、種類やメーカーの異なる電池を混ぜて使用しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池をショート、分解しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池に表示された警告、注意を守ること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

使用説明書に表示された電池を使用すること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池は幼児の手の届かない所に置くこと
幼児の飲み込みの原因となります。万一飲み込んだときはただちに医師にご相談ください。

電池の「＋」と「－」の向きを間違えないようにすること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

水につけたり、ぬらさないこと
液もれ、発熱の原因となります。

充電池以外は充電しないこと
液もれ、発熱の原因となります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること
他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則にしたがって廃棄してください。

電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗い流すこと
そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠警告
（アルカリ電池について）

使い切った電池はすぐにカメラから取り出すこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

⚠危険
（ニッケル水素充電池について）

リチャージャブルバッテリーEN-MH2は、COOLPIX用Ni-MH電池を使用するニコンデジタルカメラ専用の充電池でCOOLPIX L120に対応しています。

EN-MH2に対応していない機器には使用しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

専用のチャージャーを使用して4本セットで同時に充電すること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

禁止	**電池を火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**電池の「＋」と「－」の向きを間違えないようにすること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**電池をショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
禁止	**新しい電池と使用した電池、型番やメーカーの異なる電池を混ぜて使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因になります。
危険	**電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
（ニッケル水素充電池について）

警告	**外装チューブを外したり、傷をつけないこと** **また、外装チューブがはがれたり、傷がついている電池は絶対に使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池に表示された警告、注意を守ること** 液もれ、破裂、発火の原因となります。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。

禁止	**変色や変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
保管注意	**電池は幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。万一飲み込んだときは、ただちに医師にご相談ください。
警告	**充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときには、充電をやめること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池からもれた液が皮膚や衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。
警告	**電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコン サービス機関またはリサイクル協力店にご持参くださるか、お住まいの自治体の規則にしたがって廃棄してください。
警告	**使用説明書に表示された電池を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

注意
（ニッケル水素充電池について）

注意	**電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

目次

使用説明書について

ニコンデジタルカメラCOOLPIX L120をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

●本文中のマークについて

カメラの故障を防ぐために、使用前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。

カメラを使用するときに、便利な情報を記載しています。

カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。

関連情報を記載した参照ページを記載しています。

●表記について

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- ご購入時のカメラの設定を「初期設定」と表記しています。
- 液晶モニターに表示されるメニュー項目や、パソコンに表示されるボタン名、メッセージなどは、[ ] で囲って表記しています。

●画面例について

本書では、液晶モニター上の表示をわかりやすく説明するために、被写体の表示を省略している場合があります。

●本文中のイラストについて

本文中の画面表示を含むイラストは、実際と異なる場合があります。

内蔵メモリーとSDカードについて

本機は、内蔵メモリーとSDカードの両方に対応しています。SDカードをカメラにセットしているときは、SDカードが優先して使用されます。内蔵メモリーを使用して、撮影、再生、削除、初期化などの操作をするときは、SDカードをカメラから取り出してください。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」と「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録できます。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

●カスタマーサポート

下記のホームページでサポート情報をご案内しています。

http://www.nikon-image.com/support/

●大切な撮影を行う前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られていますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故や故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。

  http://www.nikon-image.com/support/manual/

  ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影や録音を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像や音楽は、著作権法の規定による範囲内でお使いになる以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリー（SDカード/カメラ内蔵メモリーを含む）内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトウェアなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリー内のデータはお客様の責任において管理してください。

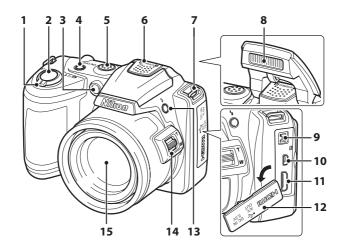
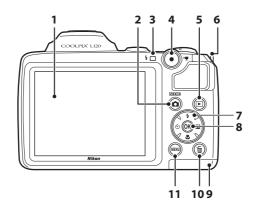
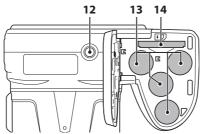
メモリーを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトウェアなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーがいっぱいになるまで、空や地面などを撮影することをおすすめします。なお、「オープニング画面」の「撮影した画像」（📖105）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。メモリーを物理的に破壊して廃棄するときは、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

●電波障害自主規制について

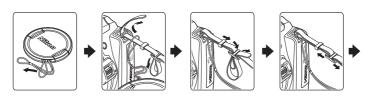
この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

各部の名称

カメラ本体

1	ズームレバー ......23 W ：広角ズーム ......23 T ：望遠ズーム ......23 ▦ ：サムネイル表示 ......62 Q ：拡大 ......64 ? ：ヘルプ 35	7	ストラップ取り付け部 6
2	シャッターボタン 24	8	フラッシュ ......7、28
3	セルフタイマーランプ ......31 AF補助光 ......25、115	9	DC入力端子（別売 ACアダプター接続用）......15、129
4	電源スイッチ/電源ランプ ......20、116	10	USB/オーディオビデオ出力端子 ......90、93、98
5	スピーカー 87	11	HDMIミニ端子 90
6	マイク（ステレオ）......79	12	端子カバー ......90、93、98
		13	⚡（フラッシュポップアップ）ボタン ......7、28
		14	サイドズームレバー 23
		15	レンズ ......125、141

1	液晶モニター 8
2	📷（撮影モード）ボタン 10
3	フラッシュランプ 28
4	●（🎥動画撮影）ボタン 10
5	▶（再生）ボタン ....10、26
6	ストラップ取り付け部 6
7	マルチセレクター 11
8	OK（決定）ボタン 11
9	電池/SDカードカバー ....14、18
10	🗑（削除）ボタン ....27、87
11	MENU（メニュー）ボタン ....12、52、66、82、104
12	三脚ネジ穴 143
13	電池室 14
14	SDカードスロット 18

ストラップとレンズキャップの取り付け方

レンズキャップをストラップに取り付けてから、ストラップをカメラに取り付けます。

2カ所に取り付けます。

レンズキャップについて

- 撮影するときはレンズキャップを外してください。
- 電源をOFFにしているときや持ち運び中など、撮影していないときはレンズキャップをカメラに取り付けてレンズを保護してください。

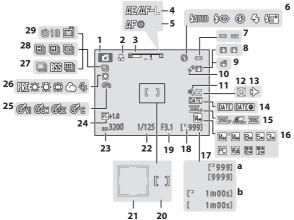
フラッシュのポップアップと収納

⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押すと、フラッシュがポップアップします。

- フラッシュの設定方法 ➞「フラッシュを使う」（📖28）
- フラッシュを使わないときは、カチッと音がするまでフラッシュを手で軽く押し下げて、閉じてください。

液晶モニターの表示内容

説明のため、すべての表示を点灯させています。
撮影、再生時の画面に表示される情報は、数秒経過すると消灯します（110）。

撮影時

1	撮影モード※ .... 20、33、46、48、50、79	16	画像モード 53
2	マクロモード 51	17	a 記録可能コマ数（静止画）.... 20 b 記録可能時間（動画）.... 79
3	ズーム表示 .... 23、51	18	内蔵メモリー表示 21
4	AE/AF-L表示 45	19	絞り値 24
5	AF表示 24	20	AFエリア .... 22、24
6	フラッシュモード 28	21	AFエリア（顔認識時、ペット検出時）.... 22、24
7	電池残量表示 20	22	シャッタースピード 24
8	手ブレ補正表示（静止画）.... 21、113	23	ISO感度表示 .... 30、58
9	電子式手ブレ補正（動画）.... 85	24	露出補正値 32
10	モーション検知表示 .... 21、114	25	ピクチャーカラー 59
11	風切り音低減 86	26	ホワイトバランス 55
12	日時未設定 132	27	連写モード 57
13	訪問先 106	28	スポーツ連写の種類 49
14	デート写し込み 112	29	セルフタイマー/ペット自動シャッター .... 31、43
15	動画設定 84		

※ アイコンは、撮影モードによって異なります。

再生時

1	撮影日 16	8	内蔵メモリー表示 26
2	撮影時刻 16	9	動画再生ガイド 87
3	音量表示 87	10	プリント指定表示 67
4	電池残量表示 20	11	スモールピクチャー 77
5	動画設定※ 84	12	D-ライティング済み表示 76
6	画像モード※ 53	13	プロテクト表示 71
7	a 画像の番号/全画像数 .... 26 b 動画の再生時間 87	14	ファイル名 131

※ アイコンは、撮影時の設定によって異なります。

主なボタン操作

◘（撮影モード）ボタン

- 再生モードで◘ボタンを押すと、撮影モードになります。
- 撮影モードで ◘ ボタンを押すと、「撮影モードメニュー」を表示して、撮影モードの切り換えができます（◫33)。

▶（再生）ボタン

- 撮影モードで▶ボタンを押すと、再生モードになります。
- 電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます。

●（動画撮影）ボタン

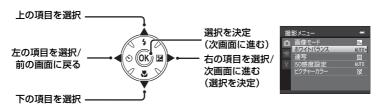
- 撮影モードで ●（動画撮影）ボタンを押すと、動画の撮影を開始します。動画の撮影を終了するときも●ボタンを押します。
- 再生モードで●ボタンを押すと、撮影モードになります。

マルチセレクター

上（▲）、下（▼）、左（◀）、右（▶）、または🆗ボタンを押して操作します。

撮影時に使う

再生時に使う

メニュー画面で使う

メニューの基本操作

MENUボタン（□5）を押すと、選んでいるモードに応じたメニューを表示します。各メニュー項目を設定するには、マルチセレクター（□11）を使います。

1 MENU（メニュー）ボタンを押す

2 マルチセレクターの▲▼で項目を選び、▶または⊛ボタンを押す

- タブを切り換えたいときは、◀を押します（□13）。

3 ▲▼で項目を選び、⊛ボタンを押す

- 設定が確定します。

4 設定が終わったら、MENU（メニュー）ボタンを押す

- メニューの表示が終了します。

メニュー画面のタブの切り換え方法

マルチセレクターの◀を押してタブに移動します。

マルチセレクターの▲▼を押してタブを選び、ⓚボタンまたは▶を押します。

選んだタブのメニューが表示されます。

以下の撮影モードのときは、メニューを表示した後、マルチセレクターの◀を押すとタブを表示できます。

- らくらくオート撮影モード、シーンモード、ベストフェイスモード

シャッターボタンの半押しと全押し

- 半押し：シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「シャッターボタンを半押しする」といいます。半押しするとピントと露出（シャッタースピードと絞り値）が合います。半押しを続けている間、ピントと露出を固定します。
- 全押し：半押しの状態から、そのまま深く押し込む（全押しする）と、シャッターがきれます。シャッターボタンを押すときに力を入れすぎると、カメラが動いて画像がぶれる（手ブレする）ことがあるので、ゆっくりと押し込んでください。

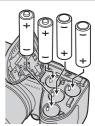
半押しすると、ピントと露出が固定　　そのまま深く押し込んで撮影

電池を入れる

1 電池/SDカードカバーを開ける

- 電池/SDカードカバーを開けるときは、電池が落下しないよう、カメラの底面を上に向けてください。
- カメラを使った直後は、カメラや電池、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

2 電池を入れる

- 電池室内の表示を見ながら、＋と－を正しい向きで入れてください。

3 電池/SDカードカバーを閉じる

- ②の部分をしっかり押さえながら、スライドさせてください。

使用できる電池について

- アルカリ単3形電池（LR6）×4本（付属の電池）
- リチウム単3形電池（FR6/L91）×4本
- Ni-MH リチャージャブルバッテリー EN-MH2（ニッケル水素充電池）×4本

※Ni-MHリチャージャブルバッテリー EN-MH1は使えません。

電源をON/OFFするには

レンズキャップを外してから、電源をONにします。電源スイッチを押すと、電源がONになります。電源ランプ（緑色）が点灯し、液晶モニターが点灯します（液晶モニターが点灯すると、電源ランプは消灯します）。もう一度電源スイッチを押すと、電源はOFFになります。電源がOFFになると、電源ランプと液晶モニターの両方が消灯します。

- 電源が OFF の状態で ▶ ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます（📖26）。

[レンズキャップを取り外してから、電源を入れなおしてください] が表示されたときは

レンズキャップが外れていることを確認してから、電源を入れ直してください。

電池を取り出すときは

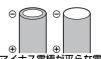
電池/SDカードカバーを開ける前に電源をOFFにして、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してください。

電池についてのご注意

- 「安全上のご注意」の「危険」、「警告」、「注意」(□ii～v) の注意事項をお守りください。
- 「取り扱い上のご注意　電池について」(□127) をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくお使いください。
- 新しい電池と使いかけの電池を混ぜたり、型番やメーカーの異なる電池を混ぜて使わないでください。
- 以下のような電池は使用しないでください。

外装シールの一部またはすべてがはがれている電池

マイナス電極の一部が突き出ていて、外装シールが側面にしかない電池

マイナス電極が平らな電池

Ni-MH リチャージャブルバッテリー EN-MH2をお使いの方へのご注意

COOLPIX L120にEN-MH2を使う場合は、バッテリーチャージャー MH-73で4本同時に充電してください (□123、129)。

[重要] 電池設定について

使用する電池の種類をセットアップメニュー (□103) の [**電池設定**] (□123) で設定すると、電池を効率よく使用できます。
初期設定は [**アルカリ電池**] です。アルカリ電池以外の電池を使うときは、電源をONにしてから電池設定を変更してください。

アルカリ電池の性能について

アルカリ電池はメーカーにより性能が大きく異なることがあります。信頼できるメーカーの電池をお使いください。

AC電源について

別売のACアダプター EH-67 (□129) を使うと、家庭用コンセント (AC100 V) からCOOLPIX L120へ電源を供給できます。EH-67以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

節電機能について (オートパワーオフ)

カメラを操作しない状態が続くと、液晶モニターが消灯して待機状態になり、電源ランプが点滅します。待機状態が約3分続くと電源はOFFになります。
電源ランプの点滅中は、以下のボタンを押すと液晶モニターが再点灯します。
→電源スイッチ、シャッターボタン、□ボタン、▶または●(動画撮影) ボタン
- 撮影時または再生時は、約30秒 (初期設定) で待機状態になります。
- 待機状態になるまでの時間は、セットアップメニュー (□103) の [**オートパワーオフ**] (□116) で変更できます。

表示言語と日時を設定する

ご購入後はじめて電源をONにすると、表示言語やカメラの内蔵時計の日時を設定する画面が自動的に表示されます。

1 電源スイッチを押して、電源をONにする

- 電源ランプ（緑色）が点灯し、液晶モニターが点灯します（液晶モニターが点灯すると、電源ランプは消灯します）。

2 マルチセレクターの▲または▼で表示言語を選び、Ⓞボタンを押す

マルチセレクター

3 ▲または▼で［はい］を選び、Ⓞボタンを押す

- 地域と日時の設定を中止するときは［**いいえ**］を選びます。

4 ◀ または ▶ で自宅のある地域（タイムゾーン）（□109）を選び、Ⓞボタンを押す

夏時間を設定する

夏時間（サマータイム）を導入している地域で、その期間中に日時を設定するときは、手順4の地域設定画面で▲を押して夏時間の設定をオンにします。
設定をオンにすると、画面上部にマークが表示されます。オフにするときは、▼を押してください。

撮影の準備

5 ▲または▼で日付の表示順を選び、Ⓚボタンまたは▶を押す

6 ▲、◀、▼または▶で日時を合わせ、Ⓚボタンを押す

- 項目を選ぶ：▶または◀を押します（[**年**]、[**月**]、[**日**]、[**時**]、[**分**] に切り換わります）。
- 項目の内容を合わせる：▲または▼を押します。
- 設定を完了する：[**分**] を選び、Ⓚ ボタンまたは▶を押します。

7 レンズキャップが外れていることを確認して、◘ボタンを押す

- レンズが繰り出し、撮影モードを選ぶ画面になります。

8 [らくらくオート撮影] が表示されたら、Ⓚボタンを押す

- 撮影画面になり、らくらくオート撮影モードで撮影できます（□20）。
- Ⓚ ボタンを押す前に▲または▼を押すと他の撮影モードが選べます（□33）。

日付の写し込みと日時の変更

- 撮影時に日付を画像に写し込むときは、日時を設定した後に、セットアップメニュー（□103）の［**デート写し込み**］を設定します（□112）。
- 内蔵時計の日時を変更するときは、セットアップメニュー（□103）の［**地域と日時**］（□106）で設定します。

SDカードを入れる

撮影したデータは、カメラの内蔵メモリー（約102 MB）または市販のSDカード（📖130）のどちらかに記録します。

カメラにSDカードを入れるとSDカードに記録し、SDカードのデータを再生、削除、または転送します。内蔵メモリーを使うときは、SDカードを取り出します。

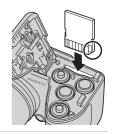
1 電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、電池/SDカードカバーを開ける

- 電池/SDカードカバーを開けるときは、必ず電源をOFFにしてください。
- 電池/SDカードカバーを開けるときは、電池が落下しないよう、カメラの底面を上に向けてください。

2 SDカードを入れる

- カチッと音がするまで差し込みます。

逆挿入に注意

SDカードの向きを間違えると、カメラやSDカードを破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

3 電池/SDカードカバーを閉じる

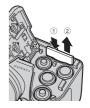
SDカードを取り出すときは

電源をOFFにして、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、電池/SDカードカバーを開けます。

SDカードを指で軽く奥に押し込むと（①）、SDカードが押し出されるので、まっすぐ引き抜きます（②）。

- カメラを使った直後は、カメラや電池、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

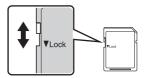
SDカードの初期化

このカードは初期化されていません。
初期化しますか?
はい
いいえ

電源をONにしたときに右の画面が表示された場合は、SDカードを初期化する必要があります。**ただし、SDカードを初期化（□117）すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。**カード内に必要なデータが残っているときは、初期化する前に、パソコンなどに保存してください。
初期化するときは、マルチセレクターで［**はい**］を選び、Ⓚボタンを押します。確認画面が表示されたら、［**初期化する**］を選び、Ⓚボタンを押すと初期化が始まります。

- 初期化中は、電源をOFFにしたり、電池/SDカードカバーを開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラで初めて使うときは、必ずこのカメラで初期化（□117）してからお使いください。

SDカードの書き込み禁止スイッチについてのご注意

SDカードのスイッチを「Lock」の位置にすると、データの書き込みや削除を禁止して、カード内の画像を保護できます。撮影時や画像を削除するとき、カードを初期化するときは「Lock」を解除してください。

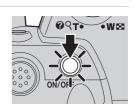
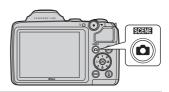
書き込み禁止スイッチ

SDカードの取り扱い上のご注意

- SDカード以外のメモリーカードは使えません。
- 初期化中、画像の記録や削除中、パソコンとの通信時などには、以下の操作をしないでください。記録しているデータの破損やカードの故障の原因となります。
  - カードを着脱しないでください
  - 電池を取り出さないでください
  - カメラの電源をOFFにしないでください
  - ACアダプターを外さないでください
- SDカードをパソコンで初期化（フォーマット）しないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたり、水に濡らしたりしないでください。
- 端子部を手や金属で触らないでください。
- ラベルやシールを貼らないでください。
- 高温になる車の中や直射日光の当たるところなどには置かないでください。
- 湿度の高いところやほこりが多いところ、腐食性のガスなどが発生するところには置かないでください。

ステップ1　電源をONにして（らくらくオート撮影）を選ぶ

（らくらくオート撮影）にすると、構図を決めるだけでカメラが撮影シーンを自動的に判別するので、簡単にシーンに合った撮影ができます（34）。

1　レンズキャップを外して、電源スイッチを押す

- レンズが繰り出し、液晶モニターが点灯します。
- （フラッシュポップアップ）ボタンを押して、フラッシュをポップアップしてください（7）。
- ご購入時は、らくらくオート撮影モードに設定されています。手順4に進んでください。

2　ボタンを押す

3　マルチセレクターの▲または▼で［らくらくオート撮影］を選び、ボタンを押す

- （らくらくオート撮影）モードになります。

4　電池残量と記録可能コマ数を確認する

電池残量表示

表示	意味
	電池残量はあります。
	電池残量が少なくなりました。 電池交換の準備をしてください。
電池残量がありません	撮影できません。 電池を交換してください。

記録可能コマ数

撮影できる残りのコマ数が表示されます。
記録可能コマ数は内蔵メモリーまたはセットしているSDカードのメモリー残量と画像モードによって異なります（53）。

（らくらくオート撮影）モードでの液晶モニター表示

- 撮影、再生時の画面に表示される情報は、数秒経過すると消灯します（110）。
- 節電による待機状態で液晶モニターが消灯しているとき（電源ランプ点滅中）は（116）、以下のボタンを押すと液晶モニターが再点灯します。
  →電源スイッチ、シャッターボタン、ボタンまたは●（動画撮影）ボタン

らくらくオート撮影モードで使える機能

- 人物の顔にカメラを向けると自動的に顔を認識して、顔にピントを合わせる顔認識撮影ができます（24、34）。
- セルフタイマー（31）、および露出補正（32）の設定ができます。
- マルチセレクターのマクロモードボタン（11、51）は使えません。クローズアップに判別されるとマクロモードになります。
- MENUボタンを押すと、画質（圧縮率）と画像サイズの組み合わせを［**画像モード**］（53）で変更できます。

フラッシュについて

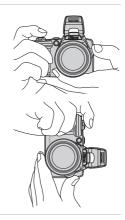
フラッシュを閉じているときは発光禁止に固定され、画面上部にが表示されます。
暗いところや逆光などでフラッシュが必要なときは、フラッシュをポップアップしてください（7、28）。

手ブレ補正とモーション検知について

- 詳しくは、セットアップメニュー（103）の［**手ブレ補正**］（113）、または［**モーション検知**］（114）をご覧ください。
- 三脚などに固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。

ステップ2　カメラを構え、構図を決める

1　カメラをしっかりと構える

- カメラを両手でしっかりと持ってください。
- レンズやフラッシュ、AF補助光、マイクなどに指や髪、ストラップなどがかからないようにご注意ください。

2　構図を決める

撮影モードアイコン

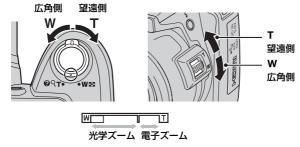
- カメラが撮影シーンを自動判別すると、撮影モードアイコンが切り換わります（□34）。
- カメラが人物の顔を認識したときは、顔に黄色い二重枠のAF（オートフォーカス）エリアが表示されます。
  最大12人の顔を認識します。複数の顔を認識したときは、カメラに最も近い顔に二重枠のAFエリアが表示され、AFエリア以外の顔に一重枠が表示されます。
- 人物以外の撮影や顔を認識できない構図では、画面中央にピントを合わせるAF エリアが表示されます。写したいもの（被写体）をAF エリアに合わせてください。

らくらくオート撮影モードのご注意

- 撮影状況によっては、意図したシーンに切り換わらないことがあります。その場合は、他の撮影モードに切り換えて撮影してください。
- 電子ズーム使用時は、撮影シーンの判別は になります。

ズームを使う

ズームレバーを回すと、光学ズームが作動します。
被写体を大きく写したいときは、**T**方向に回します。
広い範囲を写したいときは、**W**方向に回します。

- サイドズームレバーを**T**または**W**方向に操作しても、ズームの操作ができます。
- 電源をONにしたときは、最も広角側になっています。
- ズーム操作をすると、液晶モニターの画面上部にズームの量が表示されます。

電子ズームについて

光学ズームを最も望遠側（光学ズームの最大倍率）にして、さらにズームレバーまたはサイドズームレバーを**T**方向に操作し続けると、電子ズームが作動します。電子ズームは、光学ズームの最大倍率の約4倍まで拡大できます。

- 電子ズーム使用時は、AFエリアは表示されず、画面中央でピントが合います。

電子ズームと画質の劣化について

電子ズームは光学ズームとは異なり、画像をデジタル処理で拡大するため、使用する画像モード（53）や電子ズームの倍率によって、画質が劣化します。
ズーム表示の凸マークは、静止画の撮影で画質の劣化が始まるズーム位置を示しています。このマークを越えてズーム倍率を上げると劣化が始まり、ズーム表示も黄色に変わります。
凸マークの位置は画像サイズが小さいほど右に移動しますので、設定した画像モードで画質を劣化させずに静止画を撮影できるズーム位置を事前に確認できます。

画像サイズが小さい場合

ステップ3　ピントを合わせてシャッターボタンを押す

1　シャッターボタンを半押しする

- 半押し（13）すると、カメラがピントと露出（シャッタースピードと絞り値）を合わせます。
  半押しを続けている間、ピントと露出を固定します。
- 顔認識した場合：
  二重枠のAFエリアで囲まれた顔にピントが合います。ピントが合うと二重枠が緑色になります。

- 顔認識していない場合：
  画面中央にピントを合わせるAFエリアが表示されます。ピントが合うとAFエリアが緑色になります。

- 電子ズーム使用時は、AFエリアは表示されず、画面中央でピントが合います。ピントが合うとAF表示（8）が緑色に点灯します。
- 半押しして、AFエリアまたはAF表示が赤色に点滅したときはピントが合っていません。構図を変えて、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。

2　シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込む（全押しする）

- シャッターがきれ、画像が記録されます。

画像の記録についてのご注意

液晶モニターで「記録可能コマ数」が点滅しているときは、画像の記録中です。**電池/SDカードカバーを開けないでください。**
画像の記録中に電池やSDカードを取り出すと、画像が記録されないことや、撮影した画像やカメラ、SDカードが壊れることがあります。

オートフォーカスが苦手な被写体

以下のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。また、AFエリア表示やAF表示が緑色に点灯しても、まれにピントが合っていないことがあります。

- 被写体が非常に暗い
- 画面内の輝度差が非常に大きい（太陽が背景に入った日陰の人物など）
- 被写体にコントラストがない（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物など）
- 同じパターンを繰り返す被写体（窓のブラインドや、同じ形状の窓が並んだビルなど）
- 動きの速い被写体

このような被写体を撮影するときは、シャッターボタンを何回か半押ししてみるか、オート撮影モードなどで、等距離にある別の被写体にピントを合わせるフォーカスロック撮影（🕮50）をお試しください。

顔認識機能についてのご注意

詳しくは、「顔認識機能についてのご注意」（🕮34）をご覧ください。

AF補助光とフラッシュについて

暗い場所などでは、シャッターボタンを半押しするとAF補助光（🕮115）が点灯することや、シャッターボタンを全押ししたときにフラッシュ（🕮28）が発光することがあります。

ステップ4　撮影した画像を再生する/削除する

画像を再生する（再生モード）

▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮影した画像が1コマ表示されます。
- マルチセレクターの▲または◀で前の画像を表示します。▼または▶で次の画像を表示します。
- 前の画像や次の画像に切り換えた直後は、表示が粗いことがあります。
- 撮影に戻るには、◘ボタンまたは●（動画撮影）ボタンを押します。シャッターボタンを押しても戻ります。
- 内蔵メモリーの画像を再生しているときは、INが表示されます。SDカードをカメラに入れたときは、INは表示されず、SDカードの画像が再生されます。

節電により液晶モニターが消灯したときは

電源ランプの点滅中は、▶ボタンを押すと液晶モニターが再点灯します（□116）

再生モードで使える機能

詳しくは、「いろいろな再生」（□61）または「画像の編集」（□75）をご覧ください。

▶ボタンによる電源ON

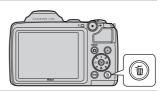
電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます。このとき、レンズは繰り出しません。

画像の再生について

顔認識（□24）またはペット検出（□43）して撮影した画像は、1コマ表示で再生すると、顔の上下方向に合わせて自動的に回転して表示されます（シーンモードの［**ペット**］（□43）で連写した画像を除く）。

不要な画像を削除する

1 削除したい画像を表示して 🗑 ボタンを押す

- 削除をやめるときは、MENU ボタンを押します。

2 マルチセレクターの▲または▼で削除方法を選び、Ⓚボタンを押す

- ［**表示画像**］：表示している画像を削除します。
- ［**削除画像選択**］：複数の画像を選んで削除します。→「削除画像選択画面の操作方法」
- ［**全画像**］：すべての画像を削除します。

3 ▲または▼で［**はい**］を選び、Ⓚボタンを押す

- 削除した画像は、もとに戻せません。
- 削除をやめるときは、▲または▼で［**いいえ**］を選び、Ⓚボタンを押します。

削除画像選択画面の操作方法

1 マルチセレクターの◀または▶で削除したい画像を選び、▲で✓を表示する

- 選択を解除するときは、▼ を押して ✓ を非表示にします。
- ズームレバー（📖4）を**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと一覧表示に切り換わります。

2 削除したい画像すべてに✓を表示し、Ⓚボタンを押して選択を決定する

- 確認画面が表示されます。画面の表示に従って操作します。

✓ 画像削除についてのご注意

- 削除した画像はもとに戻せません。残しておきたい画像はパソコンに転送して保存することをおすすめします。
- プロテクト設定した画像は、削除されません（📖71）。

🖉 撮影モードで画像を削除する

撮影時に🗑ボタンを押すと、直前に撮影した画像を削除できます。

フラッシュを使う

暗いところや逆光などでは、フラッシュをポップアップするとフラッシュ撮影ができます。

- フラッシュの光が充分に届く距離は、広角側で約 0.5 ～ 6.0 m、望遠側で約 1.5～3.0 mです。
- らくらくオート撮影モード（□20）では、フラッシュをポップアップすると、自動判別されたシーンに合わせてカメラがフラッシュの発光モード（フラッシュモード）を設定します。フラッシュを閉じると発光禁止になり、画面上部に⊛が表示されます。

フラッシュモードの設定方法

オート撮影モード（□50）、一部のシーンモード（□35）またはベストフェイスモード（□46）にすると、以下のフラッシュモードを選べます。

⚡AUTO	**自動発光**
	暗い場所などで、自動的にフラッシュを発光します。
⚡◉	**赤目軽減自動発光**
	人物撮影に適しており、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減できます（□30）。
⊛	**発光禁止**
	フラッシュは発光しません。
⚡	**強制発光**
	被写体の明るさに関係なく、フラッシュを発光します。逆光で撮影するときなどに使います。
⚡★	**スローシンクロ**
	自動発光モードにスロー（低速）シャッターを組み合わせて撮影します。夕景や夜景を背景にした人物撮影に適しています。フラッシュでメインの被写体を明るく照らすと同時に、遅いシャッタースピードで背景を写します。

1 ⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押す

- フラッシュがポップアップします。
- フラッシュを閉じているときは㊉（発光禁止）に固定されます。

2 マルチセレクターの⚡（フラッシュモード）を押す

- 液晶モニターにフラッシュモードの設定メニューが表示されます。

3 マルチセレクターの▲または▼を押してモードを選び、Ⓚボタンを押す

- 設定したフラッシュモードが表示されます。
- ⚡AUTO（自動発光）にすると［**モニター表示設定**］（📖110）にかかわらず、⚡AUTOは数秒間で消えます。
- Ⓚボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

✔ フラッシュの収納

フラッシュを使わないときは、カチッと音がするまでフラッシュを手で軽く押し下げ、閉じてください（📖7）。

ⓢ（発光禁止）にして撮影するときや、暗い場所で撮影するときのご注意

- 手ブレしやすくなるため、三脚などの使用をおすすめします。三脚などに固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（□113）を［**OFF**］にしてください。
- 液晶モニターに ISO と表示されることがあります。ISO と表示されたときは、ISO 感度が自動的に上がっています。

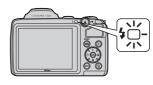
フラッシュ使用時のご注意

フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して、画像の中に白い点のように写り込むことがあります。このようなときは、フラッシュをⓢ（発光禁止）にするか、フラッシュを閉じて撮影するようおすすめします。

フラッシュランプについて

シャッターボタンの半押し時に、フラッシュの状態を確認できます。

- 点灯：撮影時にフラッシュが発光します。
- 点滅：フラッシュが充電中のため、撮影できません。
- 消灯：撮影時にフラッシュは発光しません。

電池残量が少なくなると、フラッシュの充電中は液晶モニターが消灯します。

フラッシュモードの設定について

フラッシュモードの初期設定は、撮影モード（□33）によって異なります。

- （らくらくオート撮影）モード：AUTO 自動発光。
- シーンモード：シーンによって異なります（□35）。
- （ベストフェイス）モード：AUTO 自動発光。
- （スポーツ連写）モード：ⓢ 発光禁止（固定）。
- （オート撮影）モード：AUTO自動発光。

フラッシュは、他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□60）

（オート撮影）モード（□50）の場合、変更したフラッシュモード設定は、電源をOFFにしても記憶されます。

赤目軽減自動発光について

このカメラは、「**アドバンスト赤目軽減方式**」を採用しています。

フラッシュが本発光する前に、小光量で数回発光する「プリ発光」で赤目現象の発生を軽減します。さらに、画像の記録時に赤目現象を検出すると、赤目部分を画像補正して記録します。

撮影する際は、以下にご注意ください。

- プリ発光するため、シャッターボタンを押してから、シャッターがきれるまでに、通常よりも時間がかかります。
- 画像の記録にかかる時間は、通常よりも少し長くなります。
- 撮影状況によっては、望ましい結果を得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分を補正することがあります。この場合は、他のフラッシュモードにして撮影し直してください。

セルフタイマーを使う

記念撮影など自分も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押す操作による手ブレを軽減したいときは、セルフタイマーが便利です。セルフタイマーを使うと、シャッターボタンを押してから約10秒後に、自動的にシャッターがきれます。セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□103）の［**手ブレ補正**］（□113）を［**OFF**］にしてください。

1 マルチセレクターの（セルフタイマー）を押す

- 液晶モニターにセルフタイマーの設定メニューが表示されます。

2 マルチセレクターの▲または▼を押して［**ON**］を選び、ボタンを押す

- 10が表示されます。
- ボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

3 構図を決め、シャッターボタンを半押しする

- ピントと露出が合います。

4 シャッターボタンを全押しする

- セルフタイマーが作動し、シャッターがきれるまでの秒数が液晶モニターに表示されます。作動中はセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約1秒前になると、点灯に変わります。
- シャッターがきれると、セルフタイマーは［**OFF**］になります。
- セルフタイマーを途中で止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

明るさを調整する（露出補正）

露出補正を設定して撮影すると、画像全体の明るさを明るく、または暗く調整できます。

1 マルチセレクターの⊠（露出補正）を押す

- 液晶モニターに露出補正のガイドが表示されます。

2 マルチセレクターの▲または▼で補正値を選ぶ

- 被写体を明るくしたいとき：補正値を「+」側に設定します。
- 被写体を暗くしたいとき：補正値を「−」側に設定します。

3 Ⓚボタンを押す

- Ⓚボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。
- ［**0.0**］以外に設定すると、液晶モニターに⊠マークと補正値が表示されます。

4 シャッターボタンを押して撮影する

- 露出補正を解除するときは、手順1に戻って補正値を［**0.0**］にしてⓀボタンを押します。

露出補正の設定について

◘（オート撮影）モード（□50）の場合、露出補正の設定は、電源をOFFにしても記憶されます。

撮影モードを選ぶ

以下の撮影モードを選べます。

らくらくオート撮影 20

構図を決めるだけでカメラが撮影シーンを自動的に判別し、簡単にシーンに合った設定で撮影ができます。

シーン 35

撮影シーンを選ぶだけで、そのシーンに合った設定で撮影ができます。

ベストフェイス 46

顔認識した人物の笑顔を検出して、カメラが自動でシャッターをきります。

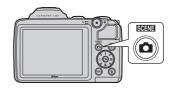
スポーツ連写 48

シャッターボタンの全押しを続けている間、高速で連写（連続撮影）できます。

オート撮影 50

フラッシュモード、マクロモード（接写）などを設定して撮影できます。連写なども設定できます。

1 撮影時に撮影ボタンを押す

- 撮影モードメニューが表示されます。

2 マルチセレクターの▲または▼で撮影モードを選ぶ

- シーンモード（上から2番目のアイコン）を選んで▶を押すと、シーンの種類を変更できます。▲▼◀▶でシーンを選びます。
- 撮影モードを切り換えずに撮影画面に戻るには、撮影ボタンを押すか、シャッターボタンを押します。

3 OKボタンを押す

- 選んだ撮影モードの撮影画面になります。

らくらくオート撮影モードについて

自動判別するシーンについて

カメラを被写体に向けると、以下の撮影シーンに合わせた設定に自動的に切り換わります。

- オート撮影（一般的な撮影）
- ポートレート（📖36）
- 風景（📖36）
- 夜景ポートレート（📖37）
- 夜景 （📖39）
- クローズアップ（📖39）
- 逆光（📖41）

顔認識機能についてのご注意

- 顔の向きなど撮影条件によっては、顔を認識できないことがあります。
  また、以下のような場合は、顔を認識できません。
  - 顔の一部がサングラスなどでさえぎられている
  - 構図内で顔を大きく、または小さくとらえすぎている
- 複数の人物がいた場合、どの人物の顔を認識してピントを合わせるかは、顔の向きなどによっても異なります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（📖25）の撮影では、二重枠が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。ピントが合わないときは、（オート撮影）モードなどで、等距離にある別の被写体でピントを合わせるフォーカスロック撮影（📖50）をお試しください。

シーンに合わせて撮影する（シーンモード）

以下の撮影シーンを選ぶだけの簡単な操作で、そのシーンに合った設定で撮影ができます。

ポートレート	風景	夜景ポートレート	パーティー
ビーチ	雪	夕焼け	トワイライト
夜景	クローズアップ	料理	ミュージアム
打ち上げ花火	モノクロコピー	逆光	パノラマアシスト
ペット			

シーンモードの設定方法

1 撮影時にボタンを押し、マルチセレクターの▲または▼でシーンモードを選ぶ

- シーンモードアイコンは前回設定したアイコンが表示されます。初期設定は、（ポートレート）です（36）。

2 ▶を押し、▲▼◀ ▶でシーンを選んでボタンを押す

- 選んだシーンの撮影画面になります。
- シーンモードの種類と特徴➞36

3 構図を決めて撮影する

- フラッシュを使うシーンでは、（フラッシュポップアップ）ボタンを押して、フラッシュをポップアップしてから撮影してください。

画像モードの設定

シーンモードのときにMENUボタンを押すと、画質（圧縮率）と画像サイズの組み合わせを［**画像モード**］（53）で設定できます。画像モードの設定を変更すると、他の撮影モードでも同じ画像モードの設定になります（スポーツ連写モードを除く）。

各シーンの説明を見るには（ヘルプ）

シーンを選ぶ画面（手順2）でシーンの種類を選び、ズームレバー（4）を**T**（?）方向に回すと、そのシーンの説明を表示できます。もとの画面に戻るには、もう一度ズームレバーを**T**（?）方向に回します。

シーンを選んで撮影する（シーンモードの種類と特徴）

各シーンに記載している⚡はフラッシュをポップアップしているときのフラッシュモード（📖28）の設定です。⏲はセルフタイマー（📖31）、🌷はマクロモード（📖51）、±は露出補正（📖32）の設定です。

ポートレート

人物のポートレート撮影に使います。

- カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→ 📖24）。
- 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
- 顔を認識しないときは、画面中央でピントが合います。
- 電子ズームは使えません。

⚡	⚡◉※	⏲	OFF※	🌷	OFF	±	0.0※

※ 変更できます。

風景

自然の風景や街並みなどを、色鮮やかに撮影したいときに使います。

- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（📖8）が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- AF 補助光（📖115）は点灯しません。

⚡	⊛	⏲	OFF※	🌷	OFF	±	0.0※

※ 変更できます。

いろいろな撮影

三脚マーク：三脚マークがついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚を使うときは、［**手ブレ補正**］（📖113）を［**OFF**］にしてください。

夜景ポートレート

夕景や夜景をバックに人物を撮影するときに使います。背景の雰囲気を活かしながら人物をフラッシュ撮影します。

- フラッシュをポップアップしてから撮影してください。
- カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影→ 24）。
- 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
- 顔を認識しないときは、画面中央でピントが合います。
- 電子ズームは使えません

	※1		OFF※2		OFF		0.0※2

※1 赤目軽減スローシンクロ強制発光に固定されます。
※2 変更できます。

パーティー

パーティー会場などでの撮影に使います。キャンドルライトなどの背景を活かして、雰囲気のある画像に仕上げます。

- 画面中央でピントを合わせます。

- 手ブレしやすいため、カメラをしっかり持ってください。暗い場所では、三脚などの使用をおすすめします。三脚などに固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（113）を［**OFF**］にしてください。

	※1		OFF※2		OFF		0.0※2

※1 赤目軽減スローシンクロに切り換わることがあります。変更できます。
※2 変更できます。

ビーチ

晴天の海や砂浜、湖などを明るく鮮やかに撮影したいときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。

	AUTO※		OFF※		OFF		0.0※

※　変更できます。

いろいろな撮影

雪

晴天の雪景色を明るく鮮やかに撮影したいときに使います。
- 画面中央でピントを合わせます。

発光	AUTO※	セルフタイマー	OFF※	マクロ	OFF	露出補正	0.0※

※　変更できます。

夕焼け

赤い夕焼けや朝焼けの撮影に使います。
- 画面中央でピントを合わせます。

発光	発光禁止※	セルフタイマー	OFF※	マクロ	OFF	露出補正	0.0※

※ 変更できます。

トワイライト

夜明け前や日没後のわずかな自然光の中での風景撮影に使います。
- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（8）が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- AF 補助光（115）は点灯しません。

発光	発光禁止	セルフタイマー	OFF※	マクロ	OFF	露出補正	0.0※

※ 変更できます。

三脚マーク：三脚マークがついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚を使うときは、［**手ブレ補正**］（113）を［**OFF**］にしてください。

夜景

夜景の撮影に使います。スローシャッターで夜景の雰囲気を表現します。

- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（8）が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- AF 補助光（115）は点灯しません。

			OFF※		OFF		0.0※

※ 変更できます。

クローズアップ

草花や昆虫、小さな被写体などの接写（近接撮影）に使います。

- マクロモード（51）が［**ON**］になり、ズームが自動的に最短距離で撮影可能な位置まで移動します。
- 最短撮影距離はズーム位置によって異なります。
  マークやズーム表示が緑色で表示されるズーム位置（マーク付近）では、レンズ前約 1 cm までの被写体にピントを合わせられます。
- 画面中央でピントを合わせます。フォーカスロックを使うと、構図を工夫して撮影できます（50）。
- シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。
- 手ブレしやすいため、［**手ブレ補正**］（113）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。

	AUTO※		OFF※		ON		0.0※

※ 変更できます。フラッシュ撮影時は、撮影距離が 50 cm 未満の場合、フラッシュの光が充分に行き渡らないことがありますのでご注意ください。

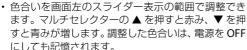
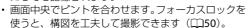
料理

料理の撮影に便利です。

- マクロモード（□51）が［**ON**］になり、ズームが自動的に最短距離で撮影可能な位置まで移動します。
- 最短撮影距離はズーム位置によって異なります。
  マークやズーム表示が緑色で表示されるズーム位置（△ マーク付近）では、レンズ前約 1 cm までの被写体にピントを合わせられます。

- 色合いを画面左のスライダー表示の範囲で調整できます。マルチセレクターの ▲ を押すと赤み、▼ を押すと青みが増します。調整した色合いは、電源を OFF にしても記憶されます。

- 画面中央でピントを合わせます。フォーカスロックを使うと、構図を工夫して撮影できます（□50）。
- シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。
- 手ブレしやすいため、［**手ブレ補正**］（□113）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。

[フラッシュ]	[発光禁止]	[セルフタイマー]	OFF※	[マクロ]	ON	[露出補正]	0.0※

※ 変更できます。

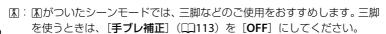
ミュージアム

フラッシュ撮影が禁止されている美術館など、フラッシュを発光させたくない場所で撮影するときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- BSS（ベストショットセレクター）（□57）を使って撮影できます。
- 手ブレしやすいため、［**手ブレ補正**］（□113）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。
- AF 補助光（□115）は点灯しません。

[フラッシュ]	[発光禁止]	[セルフタイマー]	OFF※	[マクロ]	OFF※	[露出補正]	0.0※

※ 変更できます。

[三脚]：[三脚]がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚を使うときは、［**手ブレ補正**］（□113）を［**OFF**］にしてください。

打ち上げ花火

スローシャッターで打ち上げ花火を撮影します。

- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF 表示（□8）が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- AF 補助光（□115）は点灯しません。

⚡	⊘	⏲	OFF	✿	OFF	±	0.0

モノクロコピー

ホワイトボードや印刷物などの文字を、シャープに撮影したいときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- 近くのものを撮影するときは、マクロモード（□51）を併用してください。
- 赤色、青色などの被写体を撮影すると、文字などが薄くなることがあります。

⚡	⊘※	⏲	OFF※	✿	OFF※	±	0.0※

※ 変更できます。

逆光

逆光状態での撮影に使います。フラッシュが常に発光し、人物が陰にならずに撮影できます。

- フラッシュをポップアップしてから撮影してください。
- 画面中央でピントを合わせます。

⚡	⚡	⏲	OFF※	✿	OFF	±	0.0※

※ 変更できます。

⌶ パノラマアシスト

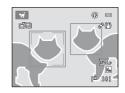
撮影した複数の画像をつなげて、パノラマ写真に合成したいときに使います。撮影した画像は、付属のソフトウェア「Panorama Maker 5」を使ってパソコンでパノラマ写真に合成します。詳しくは「パノラマアシストを使った撮影方法」（□44）をご覧ください。

⚡	⊛※	⏱	OFF※	🌷	OFF※	☑	0.0※

※ 変更できます。

ペット

犬または猫の撮影に使います。カメラが犬または猫の顔を検出し、その顔にピントを合わせます。ピントが合うと、初期設定では自動でシャッターをきります（ペット自動シャッター）。

- シーンモードの［**ペット**］を選ぶと表示される画面で、［**単写**］または［**連写**］を選びます。
  - ［**単写**］：1 コマずつ撮影します。
  - ［**連写**］：検出した顔にピントが合うと、3 コマ連写します（連写速度：画像モードが［**4320 × 3240**］のとき約 0.7 コマ / 秒）。［**連写**］設定時は、撮影画面に が表示されます。
- 検出した顔は、二重枠の AF エリア表示で囲まれ、ピントが合うと二重枠が緑色になります。
  最大 5 匹の顔を同時に検出します。顔を複数検出したときは、画面内で最も大きい顔が二重枠の AF エリア表示で、それ以外の顔が一重枠で囲まれます。

- ペットを検出していないときも、シャッターボタンを押すとシャッターをきることができます。
  - ペットを検出していないときは、画面中央の被写体でピントを合わせます。
  - ［**連写**］設定時は、シャッターボタンを全押ししている間、約 0.7 コマ / 秒で最大 19 コマまで連写できます（画像モードが［**4320 × 3240**］のとき）。
- マルチセレクターの◀（）を押すと、自動シャッターの設定を変更できます。
  - ［**ペット自動シャッター**］（初期設定）：検出した顔にピントが合うと自動でシャッターをきります。［**ペット自動シャッター**］設定時は、撮影画面に が表示されます。
  - ［**OFF**］：シャッターボタンのみでシャッターをきります。
- 電子ズームは使えません。
- AF 補助光（115）は点灯しません。設定音、シャッター音（115）は鳴りません。
- ペットとの距離、ペットの動く速さ、顔の向きや明るさなど、撮影条件によっては、犬や猫を検出しないことや、犬や猫以外を検出することがあります。

フラッシュ		セルフタイマー		マクロ		露出補正	
			※1		OFF※2		0.0※2

※1 OFFに変更できます。セルフタイマーは使えません。
※2 変更できます。

パノラマアシストを使った撮影方法

画面中央でピントを合わせます。三脚を使うと、構図を合わせやすくなります。三脚などに固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（□113）を［**OFF**］にしてください。

1 撮影時に◘ボタンを押し、マルチセレクターで⌘［パノラマアシスト］を選ぶ（□35）

- パノラマ方向（画像をつなげる方向）を示す▷マークが表示されます。

2 マルチセレクターでパノラマ方向を選び、OK ボタンを押す

- 右方向につなげるときは▷、左方向は◁、上方向は△、下方向は▽を選びます。
- 選んだ方向に黄色い▷▷マークが移動し、OK ボタンを押すと方向を決定します。決定した方向の▷（白色）が表示されます。

- フラッシュモード（□28）、セルフタイマー（□31）、マクロモード（□51）、露出補正（□32）を設定したいときは、ここで設定します。
- もう一度OKボタンを押すと、パノラマ方向を選び直せます。

3 一番端の被写体に構図を合わせ、1 コマ目を撮影する

- 撮影した画像が、画面の約 1/3 の部分に半透明で表示されます。

4 2コマ目以降を撮影する

- 次の被写体の 1/3 が前の絵柄に重なるように構図を合わせて、シャッターボタンを押します。
- この手順を繰り返して、必要な画像を撮影します。

いろいろな撮影

5 必要な画像を撮影し終わったら、OK ボタンを押す

- 手順2の状態に戻ります。

パノラマアシストについてのご注意

- フラッシュモード、セルフタイマー、マクロモード、露出補正は、1コマ目のシャッターをきる前に設定してください。1コマ目を撮影した後は変更できません。1コマ目を撮影した後は、［**画像モード**］（□53）の変更やズーム操作、画像の削除もできません。
- 撮影中にオートパワーオフ（□116）による待機状態になると撮影が終了します。オートパワーオフの時間を長めに設定しておくことをおすすめします。

AE/AF-L表示について

パノラマアシストモードでは、パノラマ写真を構成するすべての画像を、1コマ目と同じ露出、ホワイトバランスおよびピントで撮影します。
1コマ目を撮影すると、露出、ホワイトバランスとピントをロック（固定）したことを示すAE/AF-Lが画面に表示されます。

Panorama Maker 5 について

Panorama Maker 5 は、付属のViewNX 2（CD-ROM）を使ってパソコンにインストールできます。
撮影した画像をパソコンに転送して（□92）、Panorama Maker 5 でパノラマ写真に合成してください（□96）。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□131

笑顔を撮影する（ベストフェイスモード）

顔認識した人物の笑顔を検出して、カメラが自動でシャッターをきります。

1 撮影時に◘ボタンを押し、マルチセレクターの▲または▼で☺を選び、⊛ボタンを押す

- ベストフェイスモードになります。

2 構図を決める

- フラッシュを使うときは、フラッシュをポップアップします（□7）。
- カメラを被写体に向けます。
- カメラが人物の顔を認識すると、顔が黄色い二重枠のAFエリア表示で囲まれ、ピントが合うと二重枠が一瞬緑色になりピントが固定されます。
- 最大 3 人の顔を認識します。複数の顔を認識したときは、最も画面の中央に近い顔が二重枠のAFエリア表示で囲まれ、他の顔が一重枠で囲まれます。

3 自動的にシャッターがきれる

- カメラが二重枠で囲まれた人物の笑顔を検出すると、自動的にシャッターがきれます。
- シャッターがきれるたびに、顔認識と笑顔検出による自動撮影を繰り返します。

4 撮影を終了する

- 笑顔検出による自動撮影を終了するときは、電源をOFFにするか、◘ボタンを押して他の撮影モードに切り換えます。

ベストフェイスモードについてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- 撮影条件などによっては、適切に顔の認識や笑顔の検出ができないことがあります。
- 「顔認識機能についてのご注意」→□34

ベストフェイスモードでの節電機能について

ベストフェイスモードで、カメラを操作しないまま以下の状態が続くと、オートパワーオフ（□116）が作動して、電源がOFFになります。

- カメラが顔を認識しない。
- カメラが顔を認識していても、笑顔が検出できない。

セルフタイマーランプの点滅について

カメラが顔を認識すると点滅し、シャッターがきれた直後は速く点滅します。

手動でシャッターをきるには

シャッターボタンを押してもシャッターがきれます。顔認識していないときは、画面中央の被写体にピントが合います。

ベストフェイスモードで使える機能

- フラッシュをポップアップすると、フラッシュモード（□28）が ⚡AUTO（自動発光）になります（変更できます）。
- セルフタイマーとマクロモードは使えません。
- 露出補正（□32）の設定ができます。
- ベストフェイスモードでMENUボタンを押すと、画質（圧縮率）と画像サイズの組み合わせを画像モード（□53）で変更できます。画像モードの設定を変更すると、他の撮影モードでも同じ画像モードの設定になります（スポーツ連写モードを除く）。

関連ページ

オートフォーカスが苦手な被写体→□25

高速で連続撮影する（スポーツ連写）

スポーツ連写モードでは、シャッターボタンの全押しを続けている間、高速で連写（連続撮影）できます。動きのある被写体の一瞬の動きを連写でとらえます。

- 初期設定の［**連写 H**］では、約15.3コマ/秒で最大20コマまで撮影できます。
- ISO感度は高めに設定されます。
- 選べる画像モードは3M［**2048×1536**］以下です。
- ピントと露出、ホワイトバランスは、最初の1コマと同じ条件に固定されます。

1 撮影時に📷ボタンを押し、マルチセレクターの▲▼で🏃を選び、OKボタンを押す

- スポーツ連写モードになります。

2 MENUボタンを押して、スポーツ連写メニューの設定を確認または変更する

- スポーツ連写メニュー→📖49
- 設定したら、MENUボタンを押して、撮影画面に戻ります。

3 構図を決めて撮影する

- 画面中央でピントを合わせます。シャッターボタンを半押しすると、ピントと露出が固定されます。
- シャッターボタンを全押ししている間、最大連写可能コマ数（📖49）まで連写を続けます。

スポーツ連写で使える機能

- 露出補正（📖32）の設定ができます。
- フラッシュは使えません。
- セルフタイマー、マクロモードは使えません。
- AF補助光（📖115）は点灯しません。
- スポーツ連写モードでMENUボタンを押すと、［**画像モード**］、［**スポーツ連写**］（スポーツ連写の種類）の設定ができます（📖49）。

スポーツ連写についてのご注意

- 撮影後の画像の記録に時間がかかります。記録が終了するまでの時間は、撮影コマ数、画像モード、SDカードへの書き込み速度などによって異なります。
- 常にISO 400以上で撮影されるため、撮影した画像がざらつくことがあります。晴天下では適正な露出が得られない（露出オーバーになる）ことがあります。
- スポーツ連写の撮影では、液晶モニターにスミア（□127）が発生すると、記録される画像にもスミアの影響が残ります。スミアの影響を避けるため、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。
- 蛍光灯、水銀灯などの高速で明滅する照明下では、画像の明るさや色合いにばらつきが発生することがあります。
- シャッタースピードは1/4000～1/60秒の範囲で自動的に設定されます。
- 連写速度は、シャッタースピードやSDカードへの書き込み速度などによって、遅くなることがあります。
- スポーツ連写モードにすると、シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。常にピントを合わせる動作音がします。

関連ページ

オートフォーカスが苦手な被写体→□25

スポーツ連写モードの設定を変える

（スポーツ連写）モードの撮影画面にしてから（□48）、MENUボタン（□5）を押すと、スポーツ連写メニューで以下の項目を設定できます。

- メニューの選択と設定にはマルチセレクターを使います（□11）。
- メニュー表示を終了するには、MENUボタンを押します。

画像モード

［**画像モード**］（□53）を設定できます。

- スポーツ連写モードで選べる画像モードは ［**2048 × 1536**］、［**1024 × 768**］（初期設定）、［**640 × 480**］、［**1920 × 1080**］です。
- スポーツ連写モードの画像モード設定は、他の撮影モードの画像モード設定とは連動せずに、独立して記憶されます。

スポーツ連写

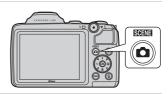
スポーツ連写の種類（最大連写速度）を選びます。

- ［**連写 H**］（初期設定）：約 15.3 コマ / 秒、（最大 20 コマ）
- ［**連写 M**］：約 7.9 コマ / 秒、（最大 20 コマ）
- ［**連写 L**］：約 4.5 コマ / 秒、（最大 20 コマ）

オート撮影モードで撮影する

📷（オート撮影）モードではフラッシュモード（📖28）の変更、セルフタイマー（📖31）、マクロモード（📖51）、および露出補正（📖32）の設定ができます。また、📷（オート撮影）モードのときにMENUボタンを押すと、撮影メニュー（📖52）の機能を、撮影状況に合わせて設定できます。

1 撮影時に📷ボタンを押す

- 撮影モードメニューが表示されます。

2 マルチセレクターの▲▼で📷を選び、OKボタンを押す

- 📷（オート撮影）モードになります。
- 撮影状況に応じて、フラッシュモード（📖28）、セルフタイマー（📖31）、露出補正（📖32）、またはマクロモード（📖51）を設定します。
- MENUボタンを押して、撮影メニューの機能を撮影状況に合わせて設定します（📖52）。

3 構図を決めて撮影する

- 画面中央でピントを合わせます。

フォーカスロック撮影

AF（オートフォーカス）エリアが画面中央でも、ピントを固定（フォーカスロック）する方法を使うと、構図を工夫して撮影できます。

- フォーカスロックをしている間は被写体との距離を変えないでください。
- シャッターボタンを半押しすると、露出は固定されます。

ピントを合わせたい被写体にカメラを向ける

半押しする

AF エリアが緑色に点灯したら

半押ししたまま構図を変える

そのまま深く押し込む

マクロ（接写）モードを使う

最短約1 cmまで被写体に近づいて撮影できます。ただし、フラッシュ撮影時は、撮影距離が50 cm未満の場合、フラッシュの光が充分に行き渡らないことがありますのでご注意ください。

（オート撮影）モードでは、以下の手順で設定します。マクロモードは、一部のシーンモードでも設定できます（39、40、41）。

1 マルチセレクターの（マクロモード）を押す

- 液晶モニターにマクロモードの設定メニューが表示されます。

2 マルチセレクターの▲または▼で[ON]を選び、ボタンを押す

- マークが表示されます。
- ボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

3 ズームレバーまたはサイドズームレバーを操作し、マークやズーム表示が緑色になるズーム位置にする

- マークやズーム表示が緑色で表示されるズーム位置（マーク付近）では、レンズ前約1 cmまでの被写体にピントを合わせられます。

オートフォーカスについて

静止画を撮影する場合、マクロモードにすると、シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。常にピントを合わせる動作音がします。

マクロモードの設定について

- （らくらくオート撮影）モード：に判別されるとマクロモードになります。マクロモードボタンは使えません。
- シーンモード：シーンによって異なります（35）。［**クローズアップ**］または［**料理**］に設定するとマクロモードになります。
- （ベストフェイス）モード、（スポーツ連写）モード：マクロモードは使えません。
- （オート撮影）モードの場合、マクロモードの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。

（オート撮影）モードの設定を変える（撮影メニュー）

（オート撮影）モード（□50）で撮影するときは、以下の撮影メニューを設定できます。

画像モード □53

記録時の画像モード（画像の大きさと圧縮率の組み合わせ）を選びます。（オート撮影）モード以外の撮影モードでも設定できます。

ホワイトバランス □55

画像を見た目に近い色で記録するように、光源に合わせてホワイトバランスを設定します。

連写 □57

連写（連続撮影）やBSS（ベストショットセレクター）を設定できます。

ISO感度設定 □58

被写体の明るさなどに応じて、ISO感度を設定します。

ピクチャーカラー □59

記録する画像の色調を変えます。

撮影メニューの表示方法

カメラを（オート撮影）モードにします（□50）。

MENUボタンを押して、撮影メニューを表示します。

- メニューの選択と設定にはマルチセレクターを使います（□11）。
- 撮影メニューを終了するには、MENUボタンを押します。

同時に設定できない機能について

複数の機能を同時に設定できないことがあります（□60）。

画像モード（画質/画像サイズ）

（オート撮影）に設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ 画像モード

記録する画像の大きさと、画質（圧縮率）の組み合わせを選びます。画像の用途や内蔵メモリー/SDカードの残量に合わせて設定してください。画像サイズの大きい画像モードほど、大きくプリントするのに適していますが、記録できるコマ数は少なくなります。

画像モード	画像サイズ（ピクセル）	内　容
4320×3240★	4320×3240	よりも高画質な画像になります。圧縮率は約1/4です。
4320×3240（初期設定）	4320×3240	ファイルサイズと画質のバランスが良く、一般的な撮影に適した画像モードです。圧縮率は約1/8です。
3264×2448	3264×2448	
2592×1944	2592×1944	
2048×1536	2048×1536	、、よりも画像サイズが小さいため、より多く撮影できます。圧縮率は約1/8です。
1024×768	1024×768	パソコンのモニターに表示するときに適しています。圧縮率は約1/8です。
640×480	640×480	電子メールへの添付や画面の縦横比が4:3のテレビへの表示に適しています。圧縮率は約1/8です。
4224×2376	4224×2376	縦横比が16:9の画像を撮影できます。圧縮率は約1/8です。

画像モードの設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（□8、9）。

画像モードの設定について

- （オート撮影）モード以外の撮影モードでも、MENUボタンを押すと設定できます。設定は、他の撮影モードにも適用されます（スポーツ連写モードを除く）。
- この機能は、他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□60）

スポーツ連写モードの画像モードについて

- スポーツ連写モード（□48）で選べる画像モードは［**2048×1536**］、［**1024×768**］、［**640×480**］、［**1920×1080**］（画像サイズ 1920×1080、圧縮率約1/8）です。
- スポーツ連写モード（□48）の画像モード設定は、他の撮影モードの画像モード設定とは連動せずに、独立して記憶されます。

記録可能コマ数

内蔵メモリーや4 GBのSDカードに記録できるおおよそのコマ数は以下のとおりです。ただし、JPEG圧縮の性質上、画像の絵柄によって記録可能コマ数は大きく異なります。同じ容量のSDカードでも、カードの種類によって、記録可能コマ数が異なることがあります。

画像モード	内蔵メモリー（約102 MB）	SDカード※1（4 GB）	プリント時の大きさ※2
4320×3240★	15コマ	550コマ	約36×27 cm
4320×3240	30コマ	1100コマ	約36×27 cm
3264×2448	52コマ	1910コマ	約28×21 cm
2592×1944	81コマ	2940コマ	約22×16 cm
2048×1536	126コマ	4640コマ	約17×13 cm
1024×768	411コマ	15000コマ	約9×7 cm
640×480	731コマ	24100コマ	約5×4 cm
4224×2376	41コマ	1520コマ	約35×20 cm
1920×1080※3	182コマ	6700コマ	約16×9 cm

※1 記録可能コマ数が10,000コマ以上の場合、画面には「9999」と表示されます。

※2 出力解像度を300 dpiに設定した場合のサイズです。
ピクセル数÷プリンター解像度（dpi）× 2.54 cm で計算しています。同じ画像サイズでも、高い解像度で印刷すると印刷サイズは小さくなり、低い解像度で印刷すると、印刷サイズは大きくなります。

※3 スポーツ連写モードのみ

ホワイトバランス（色合いの調整）

（オート撮影）に設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ ホワイトバランス

人間の目には、晴天、曇り空、白熱電球や蛍光灯の室内など、光源の色に関係なく白い被写体は白く見えます。人間の目に白く見える色を、デジタルカメラで白く撮影するには、光源の色に合わせて調整が必要です。この調整を「ホワイトバランスを合わせる」といいます。
初期設定の［**オート**］でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせて設定を変更してください。

AUTO	**オート（初期設定）**
	カメラが自動的にホワイトバランスを調整します。ほとんどの場合、この設定のままで撮影できます。
PRE	**プリセットマニュアル**
	特殊な照明の下などでの撮影に適しています。詳しくは「プリセットマニュアルの使い方」（56）をご覧ください。
	晴天
	晴天の屋外での撮影に適しています。
	電球
	白熱電球の下での撮影に適しています。
	蛍光灯
	白色蛍光灯の下での撮影に適しています。
	曇天
	曇り空の屋外での撮影に適しています。
	フラッシュ
	フラッシュを使う撮影に適しています。

ホワイトバランスの設定は、撮影時の画面で確認できます（8）。［**オート**］のときは何も表示されません。

ホワイトバランスについてのご注意

- この機能は、他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（60）
- ［**オート**］、［**フラッシュ**］以外のホワイトバランスを選んだときは、フラッシュを（発光禁止）に設定してください（28）。

プリセットマニュアルの使い方

特殊な照明の下で撮影するときなど、［**オート**］や［**電球**］などのホワイトバランス設定では望ましい結果が得られない場合に使います（赤みがかった照明下で撮影した画像を、普通の照明下で撮影したように見せたいときなど）。
以下の手順で、撮影する照明下のホワイトバランス値を測定して、撮影します。

1 撮影する照明下で、白またはグレーの被写体を用意する

2 撮影メニューを表示し（□52）、マルチセレクターで［**ホワイトバランス**］の［**PRE プリセットマニュアル**］を選び、**OK**ボタンを押す

- レンズが測定用のズーム位置になります。

3 ［**新規設定**］を選ぶ

- 前回測定したホワイトバランス値を使いたいときは、［**前回の設定**］を選んで**OK**ボタンを押します。再測定せずに、ホワイトバランスが前回の値に設定されます。

4 測定窓に、用意した白またはグレーの被写体を収める

測定窓

5 **OK**ボタンを押して、ホワイトバランス値を測定する

- シャッターがきれて、ホワイトバランスのプリセット値が新たに設定されます（画像は記録されません）。

✔ プリセットマニュアルについてのご注意

フラッシュ発光時のホワイトバランス値は測定できません。フラッシュ撮影時は、［**ホワイトバランス**］を［**オート**］または［**フラッシュ**］に設定してください。

連写

(オート撮影)に設定 ➔ MENU(撮影メニュー)➔ 連写

連写(連続撮影)やBSS(ベストショットセレクター)を設定できます。

S	**単写(初期設定)**
	1コマずつ撮影します。
	連写
	シャッターボタンを全押ししている間、約0.7コマ/秒で最大19コマまで連写できます(画像モードが 14M[**4320×3240**]のとき)。
BSS	BSS**(ベストショットセレクター)**
	暗い場所でフラッシュを使わずに撮影するときや、望遠側で撮影するときなど、手ブレしやすい状況で撮影する場合に設定します。 シャッターボタンを全押ししている間、連写を続け(最大10コマ)、撮影した画像の中から最も鮮明に撮れている1コマをカメラが自動的に選んで記録します。
	マルチ連写
	シャッターボタンを1回全押しすると約22コマ/秒で16コマの連続写真を撮影し、1コマの画像として記録します。記録される画像モードは 5M(画像サイズ:2560×1920ピクセル)に固定されます。 ・電子ズームは使えません。

連写の設定は、撮影時の画面で確認できます(□8)。[**単写**]のときは何も表示されません。

連写についてのご注意

- [**連写**]、[**BSS**]または[**マルチ連写**]で撮影するときは、フラッシュは使えません。ピントと露出、ホワイトバランスは、最初の1コマと同じ条件に固定されます。
- 画像モード、SDカードの種類または撮影状況によって、連写速度が遅くなることがあります。
- この機能は、他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」(□60)

BSSについてのご注意

[**BSS**]は静止している被写体の撮影に効果的です。動いている被写体の撮影や、構図を変えながらの撮影では、望ましい結果が得られない場合があります。

マルチ連写についてのご注意

マルチ連写の撮影では、液晶モニターにスミア（□127）が発生すると、記録される画像にもスミアの影響が残ります。スミアの影響を避けるため、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。

ISO感度設定

（オート撮影）に設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ ISO感度設定

ISO感度を高くすると、より少ない光量で撮影できます。
ISO感度を高くするほど、より暗い被写体を撮影できます。また、同じ明るさの被写体でも、より速いシャッタースピードで撮影でき、手ブレや被写体の動きによるブレを軽減しやすくなります。

・ ISO感度を高くすると、暗い被写体の撮影、フラッシュを使わない撮影、望遠側での撮影などに効果的ですが、撮影した画像が多少ざらつくことがあります。

オート（初期設定）

明るい場所ではISO 80になり、暗い場所では自動的にISO 800までISO感度が高くなります。

80、100、200、400、800、1600、3200、6400

ISO感度を選んだ値に固定します。
・ ISO 感度を固定すると、［**モーション検知**］（□114）は作動しません。

ISO感度の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。［**オート**］に設定した場合、ISO 80で撮影できるときは何も表示されず、ISO感度が自動的に上がったときにISOマークが表示されます（□30）。

ISO感度設定についてのご注意

この機能は、他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□60）

ISO感度［3200］および［6400］についてのご注意

［**ISO感度設定**］を［**3200**］または［**6400**］にして撮影するときは、選べる［**画像モード**］は3M［**2048×1536**］、PC［**1024×768**］、VGA［**640×480**］に制限されます。撮影画面の画像モード表示が赤色になり、画面左下のISO感度表示に⊞マークが付きます。

ISO 3200

ピクチャーカラー

(オート撮影)に設定 ➔ MENU(撮影メニュー)➔ ピクチャーカラー

記録する画像の色調を変えます。

	標準カラー(初期設定)
	自然な色調になります。
	ビビッドカラー
	はっきりした色調になります。
	白黒
	白黒写真になります。
	セピア
	セピア色になります。
	クール
	ブルー系のモノトーンになります。

ピクチャーカラーの設定は、撮影時の画面で確認できます(□8)。[**標準カラー**]のときは何も表示されません。設定に応じて、画面の色調も変わります。

ピクチャーカラーについてのご注意

この機能は、他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」(□60)

同時に設定できない機能

撮影メニューには、他の機能と組み合わせて使えない設定があります。

制限される機能	設定	内容
フラッシュモード	連写（□57）	［**連写**］、［**BSS**］または［**マルチ連写**］にして撮影するときは、フラッシュは使えません。
電子ズーム	連写（□57）	［**マルチ連写**］で撮影するときは、電子ズームは使えません。
画像モード	連写（□57）	［**マルチ連写**］で撮影するときは、［**画像モード**］は5M（画像サイズ：2560×1920ピクセル）に固定されます。
	ISO感度設定（□58）	［**ISO 感度設定**］を［**3200**］または［**6400**］にして撮影するときは、選べる［**画像モード**］は3M［**2048×1536**］、PC［**1024×768**］、VGA［**640×480**］に制限されます。 これらの画像モード以外に設定していたときに［**ISO感度設定**］を［**3200**］または［**6400**］にすると、3M［**2048×1536**］に変更されます。
ホワイトバランス	ピクチャーカラー（□59）	［**白黒**］、［**セピア**］、または［**クール**］にして撮影するときは、［**ホワイトバランス**］は［**オート**］に固定されます。
連写	セルフタイマー（□31）	セルフタイマーで撮影するときは、［**単写**］に固定されます。
ISO感度設定	連写（□57）	［**マルチ連写**］で撮影するときは、［**ISO感度設定**］は明るさに応じて自動的に設定されます。
デート写し込み	連写（□57）	［**連写**］または［**BSS**］にして撮影するときは、日付を写し込めません。
モーション検知	連写（□57）	［**マルチ連写**］で撮影するときは、［**モーション検知**］は作動しません。
	ISO感度設定（□58）	ISO感度を［**オート**］以外にすると、［**モーション検知**］は作動しません。

1コマ表示中の操作

撮影モードのときに▶（再生）ボタンを押すと再生モードになり、撮影した画像を再生します（□26）。

1コマ表示では、以下の操作ができます。

機能	操作部	内容	□
画像を選ぶ	マルチセレクター	▲▼◀ ▶で前後の画像を表示します。▲▼◀ ▶を押し続けると早送りします。	11
画像を一覧表示する/カレンダー表示にする	**W**（▦）	4コマ、9コマ、または16コマのサムネイル画像を表示します。16コマ表示でズームレバーを**W**（▦）方向に回すとカレンダー表示になります。	62、63
画像を拡大する	**T**（Q）	最大約10倍までの倍率に拡大します。Ⓚボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。	64
動画を再生する	Ⓚ	表示中の動画を再生します。	87
画像を削除する	🗑	削除方法を選んで画像を削除します。	27
メニューを表示する	MENU	再生メニューを表示します。	66
撮影に切り換える	📷 / シャッターボタン / ●	📷ボタンまたはシャッターボタンを押します。●（動画撮影）ボタンを押しても、撮影に切り換わります。	10

画像の向き（縦横位置）を変更するには

撮影後に、再生メニュー（□66）の［**画像回転**］（□73）で変更できます。

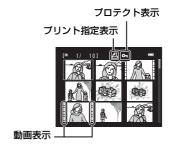
複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示）

再生モードの1コマ表示（□26）でズームレバーを **W**（▦）方向に回すと、画像を一覧できる「サムネイル表示」になります。

サムネイル表示では、以下の操作ができます。

機能	操作部	内容	□
画像を選ぶ		マルチセレクターの▲▼◀ ▶を押します。	11
表示コマ数を増やす/カレンダーを表示する	**W**（▦）	ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと、4コマ→9コマ→16コマ→カレンダー表示に切り換わります。「カレンダー表示」にすると、撮影日単位で画像の選択を移動できます（□63）。**T**（Q）方向に回すと、サムネイル表示に戻ります。	–
表示コマ数を減らす	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、16コマ→9コマ→4コマに切り換わります。4コマ表示で**T**（Q）方向に回すと、1コマ表示に戻ります。	
画像を削除する	🗑	削除方法を選んで画像を削除します。	27
1コマ表示に戻る	Ⓚ	Ⓚボタンを押します。	26
撮影に切り換える	📷 / シャッターボタン / ●	📷ボタンまたはシャッターボタンを押します。●（動画撮影）ボタンを押しても、撮影に切り換わります。	10

サムネイルに表示されるマーク

［**プリント指定**］（□67）や［**プロテクト設定**］（□71）をした画像の選択中は右のマークが表示されます。動画は、映画フィルムの1コマのように表示されます。

カレンダー表示

再生モードのサムネイル表示を16コマ表示にした後（□62）、さらにズームレバーを**W**（▦）方向に回すと、「カレンダー表示」になります。
撮影日単位で画像の選択を移動できます。撮影画像のある日付には、黄色の下線が表示されます。

カレンダー表示では、以下の操作ができます。

機能	操作部	内容	□
日付を選ぶ	マルチセレクター	マルチセレクターの▲▼◀ ▶を押します。	11
1コマ表示に戻る	OK	選んだ日に最初に撮影した画像の1コマ表示に移動します。	26
サムネイル表示に戻る	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。	–

カレンダー表示についてのご注意

- 日時を設定せずに撮影した画像は、カレンダー表示で「2011年1月1日」の画像として扱われます。
- カレンダー表示中は、削除ボタンおよびMENUボタンは使えません。

いろいろな再生

画像を拡大表示する

再生モードの1コマ表示（□26）でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、表示中の画像の中央部が拡大表示されます。

- 画面右下のガイドは、画像のどの部分を表示しているかを示しています。

拡大表示では、以下の操作ができます。

機能	操作部	内容	□
拡大率を上げる	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。約10倍まで拡大できます。	–
拡大率を下げる	**W**（▦）	ズームレバーを**W**（▦）方向に回します。倍率が1倍になると、1コマ表示に戻ります。	–
表示範囲を移動する	マルチセレクター	マルチセレクターの▲▼◀ ▶を押して、表示範囲を移動します。	11
1コマ表示に戻る	Ⓚ	Ⓚボタンを押します。	26
画像の一部を切り抜く（トリミング）	MENU	拡大表示した部分だけを別画像として保存します。	78
画像を削除する	🗑	削除方法を選んで画像を削除します。	27
撮影に切り換える	📷 / シャッターボタン / ●	📷ボタンまたはシャッターボタンを押します。●（動画撮影）ボタンを押しても、撮影に切り換わります。	10

顔認識またはペット検出して撮影した画像の場合

顔認識（□24）またはペット検出（□43）して撮影した画像は、1コマ表示でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、撮影時に認識した顔を中心に拡大表示されます（シーンモードの［**ペット**］（□43）で連写した画像を除く）。

- 複数の顔を認識していたときは、ピント合わせを行った顔を中心に拡大表示され、マルチセレクターの▲▼◀ ▶を押すと表示する顔が切り換わります。
- さらに**T**（Q）方向または**W**（▦）方向に回すと拡大率が変わり、通常の拡大表示になります。

再生メニューを使う

再生メニューでは、以下の機能が使えます。

🅓	**D-ライティング**	📖76
	撮影した画像の暗い部分を明るく補正します。	
🖶	**プリント指定**	📖67
	プリンターでプリントする画像や、その枚数などを設定します。	
▶	**スライドショー**	📖70
	内蔵メモリー /SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。	
O-π	**プロテクト設定**	📖71
	大切な画像を誤って削除しないように、プロテクト（保護）します。	
⟲	**画像回転**	📖73
	撮影した画像の向きを変更します。	
▣	**スモールピクチャー**	📖77
	撮影した画像から、サイズの小さい画像を新しく作ります。	
⧉	**画像コピー**	📖74
	内蔵メモリーとSDカードの間で画像をコピーします。	

再生メニューの表示方法

▶ボタンを押して再生モードにします（📖61）。
MENUボタンを押して、再生メニューを表示します。

- メニューの選択と設定にはマルチセレクターを使います（📖11）。
- 再生メニューを終了するには、MENUボタンを押します。

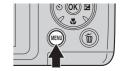
凸 プリント指定（プリントする画像や枚数の設定）

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ 凸 プリント指定

SDカードに記録した画像を以下の方法でプリントする場合、どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめSDカードに設定できます。

- カードスロットが付いたDPOF対応（□144）のプリンターでプリントする。
- DPOF対応のプリントサービス店にプリントを依頼する。
- カメラを PictBridge 対応（□144）のプリンターに接続してプリントする（□97）（カメラからSDカードを取り外すと、内蔵メモリーに記録した画像にもプリント指定できます）。

1 再生モードでMENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで［**プリント指定**］を選び、OKボタンを押す

3 ［**複数画像選択**］を選び、OKボタンを押す

4 プリントする画像（最大99コマまで）と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定する

- マルチセレクターの ◀ ▶ を押して画像を選び、▲▼を押してプリント枚数を設定します。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、その画像の選択を解除できます。
- ズームレバーを**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したらⓀボタンを押します。

5 日付と撮影情報を画像に入れてプリントするかどうかを設定する

- ［**日付**］を選んでⓀボタンを押すと、すべての画像に撮影日を印字します。
- ［**撮影情報**］を選んでⓀボタンを押すと、すべての画像に撮影情報（シャッタースピードと絞り値）を印字します。
- ［**選択終了**］を選んでⓀボタンを押し、設定を有効にします。

［**プリント指定**］を行った画像は、再生時の画面で確認できます。

いろいろな再生

日付と撮影情報を入れてプリントするときのご注意

プリント指定で設定した［**日付**］と［**撮影情報**］は、「日付」や「撮影情報」が印字可能なDPOF対応プリンター（□144）で印字できます。

- 付属のUSBケーブルでカメラをプリンターに接続して「DPOFプリント」（□101）するときは、「撮影情報」は印字できません。
- プリント指定を行った後、再び［**プリント指定**］を表示すると、［**日付**］と［**撮影情報**］の設定はリセットされますのでご注意ください。
- プリントされる日付は、撮影時点でカメラに設定されている日時です。撮影後にセットアップメニューの［**地域と日時**］で［**日時の設定**］や［**タイムゾーン**］を変更してもプリントされる日付には反映されません。

プリント指定をすべて取り消すには

プリント指定の手順3（□67）で［**プリント指定取消**］を選んでⓀボタンを押すと、すべての画像に対するプリント指定を取り消しできます。

［デート写し込み］について

セットアップメニューの［**デート写し込み**］（□112）を使うと、撮影時に日時を画像に写し込んで記録できます。日付の印字（□68）に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。デート写し込みした画像は、［**プリント指定**］で日付の印字を設定しても、デート写し込みした日付のみがプリントに表示されます。

スライドショー

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ スライドショー

内蔵メモリー /SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。

1 マルチセレクターで［**開始**］を選び、OK ボタンを押す

- 繰り返し再生するには、［**開始**］を選ぶ前に［**エンドレス**］を選んでOKボタンを押し、チェックボックスをオン［✔］にします。

2 スライドショーが始まる

- 再生中にマルチセレクターの ▶ を押すと次の画像、◀を押すと前の画像を表示します（ボタンを押し続けると早送り/巻き戻しになります）。
- 途中で終了または一時停止したいときは、OKボタンを押します。

3 終了または再開する

- スライドショー終了時や一時停止中は、右の画面になります。［**終了**］を選び、OKボタンを押すと再生メニューに戻ります。［**再開**］を選ぶとスライドショーを再開します。

スライドショーについてのご注意

- 動画（□87）は1フレーム目だけを表示します。
- スライドショーを連続再生できる時間は、［**エンドレス**］に設定している場合も含め、最大30分です（□116）。

On プロテクト設定

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ On プロテクト設定

大切な画像を誤って削除しないように、画像にプロテクト（保護）を設定できます。画像選択の画面で、画像を選んでプロテクトの設定または解除をします。→「画像選択画面の操作方法」（□72）。
ただし、内蔵メモリー /SDカードを初期化（フォーマット、□117）すると、プロテクト設定した画像も削除されますので、ご注意ください。
プロテクト設定した画像は、カメラでの再生時にOnマーク（□9、63）が表示されます。

画像選択画面の操作方法

以下の操作では、画像選択時に右のような画面が表示されます。

- プリント指定の［**複数画像選択**］（□67）
- プロテクト設定（□71）
- 画像回転（□73）
- 画像コピーの［**選択画像コピー**］（□74）
- オープニング画面の［**撮影した画像**］（□105）
- 画像削除の［**削除画像選択**］（□27）

以下の手順で画像を選びます。

1 マルチセレクターの◀または▶で画像を選ぶ

- ズームレバーを **T**（Q）方向に回すと 1 コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- ［**オープニング画面**］、［**画像回転**］の画像選択では、1画像しか選べません。→手順3へ

2 ▲または▼でON/OFF（またはプリント枚数）を設定する

- ONにすると、選択画像に✓が表示されます。複数の画像に設定したいときは、手順1と2を繰り返します。

3 ⓚボタンを押して画像選択を決定する

- ［**選択画像コピー**］などでは、確認画面になります。画面の表示に従って操作してください。

画像回転

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ 画像回転

撮影後に、カメラなどで表示するときの画像の向き（縦横位置）を設定します。画像を時計方向に90度、または反時計方向に90度回転できます。
撮影時に縦位置で記録された画像は、時計回り/反時計回りのどちらか一方向に180度まで回転できます。

画像選択の画面で回転する画像を選ぶと（□72）、画像回転の画面が表示されます。マルチセレクターの◀または▶を押すと90度回転します。

反時計方向に90 度回転

時計方向に90 度回転

OKボタンを押すと、表示している方向で決定し、画像に縦横位置情報が記録されます。

いろいろな再生

画像コピー（内蔵メモリーとSDカード間のコピー）

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ 画像コピー

内蔵メモリーの画像をSDカードへ、またはSDカードの画像を内蔵メモリーへコピーできます。

1 マルチセレクターでコピーする方向を選び、OKボタンを押す

- IN➔SD：内蔵メモリーからSDカードへコピーします。
- SD➔IN：SD カードから内蔵メモリーへコピーします。

2 コピーの方法を選び、OKボタンを押す

- ［**選択画像コピー**］：画像選択の画面（□72）で、画像を選んでコピーします。
- ［**全画像コピー**］：すべての画像をコピーします。

画像コピーについてのご注意

- コピーできるファイルの形式は、JPEG、MOVです。これ以外の形式のファイルはコピーできません。
- 他社製のカメラで撮影した画像やパソコンで加工した画像のコピーは動作を保証していません。
- ［**プリント指定**］（□67）した画像をコピーしても、プリント指定の設定内容はコピーされません。［**プロテクト設定**］（□71）した画像をコピーすると、コピー先の画像もプロテクトされます。

［撮影画像がありません］のメッセージについて

SDカードに画像が記録されていないときに再生モードに切り換えると、［**撮影画像がありません**］と表示されますが、MENUボタンを押すと画像コピー画面が表示され、内蔵メモリー内の画像をSDカードにコピーできます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□131

画像編集の種類

このカメラでは以下の機能を使って画像を簡単に編集できます。編集した画像は元画像とは別に、異なるファイル名で保存されます（□131）。

編集の種類	用途
D-ライティング（□76）	逆光やフラッシュの光量不足で暗くなった部分を明るく補正します。
スモールピクチャー（□77）	サイズの小さい画像を作成します。電子メールに添付して送信するときなどに使います。
トリミング（□78）	画像の一部を切り抜きます。被写体をクローズアップしたいときや構図に手を加えたいときなどに使います。

画像編集についてのご注意

- ［**画像モード**］（□53）を［**4224×2376**］または［**1920×1080**］にして撮影した画像は、編集できません。
- COOLPIX L120以外で撮影した画像は、COOLPIX L120で編集できません。
- COOLPIX L120以外のデジタルカメラでは、COOLPIX L120で編集した画像の正常な表示やパソコンへの転送ができないことがあります。
- 内蔵メモリー /SDカードに充分な空き容量がないときは、編集できません。

画像編集の制限

編集で作成した画像に別の編集を追加するときには、以下の制限があります。

編集に使った機能	追加できる編集機能
D-ライティング	スモールピクチャーまたはトリミングができます。
スモールピクチャー **トリミング**	追加編集できません。

- 編集で作成した画像に同じ種類の編集を繰り返すことはできません。
- スモールピクチャーまたはトリミングとD-ライティングを組み合わせるときは、スモールピクチャーまたはトリミングは最後に編集してください。

元画像と編集画像の関係について

- 編集で作成した画像は、元画像を削除しても削除されません。また編集で作成した画像を削除しても、元画像は削除されません。
- 編集で作成した画像の撮影日時は、元の画像と同じです。
- ［**プリント指定**］（□67）や［**プロテクト設定**］（□71）した画像を編集しても、これらの設定内容は編集で作成した画像に反映されません。

画像を編集する

D-ライティング（画像の暗い部分を明るく補正する）

逆光やフラッシュの光量不足などで暗くなった被写体を明るく補正できます。
補正した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（61）またはサムネイル表示（62）で画像を選び、MENUボタンを押す

• 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで［D-ライティング］を選び、OKボタンを押す

• 補正前（左側）と補正後（右側）の見本が表示されます。

3 ［実行］を選び、OKボタンを押す

• 補正した画像が作成されます。
• 中止するときは、［**キャンセル**］を選び、OK ボタンを押します。

• D-ライティングで作成した画像は、再生画面でが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→131

スモールピクチャー（画像サイズを小さくする）

撮影した画像から、サイズの小さい画像を作成します。ホームページで使ったり、電子メールへ添付したりするのに便利です。サイズは［640×480］、［320×240］、または［160×120］から選べます。スモールピクチャーは、元の画像とは別の画像（圧縮率約1/16）として保存されます。

1 1コマ表示（61）またはサムネイル表示（62）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで［スモールピクチャー］を選び、OKボタンを押す

3 スモールピクチャーのサイズを選び、OKボタンを押す

4 ［はい］を選び、OKボタンを押す

- スモールピクチャーが作成されます。
- 中止するときは、［いいえ］を選び、OK ボタンを押します。
- スモールピクチャーで作成した画像は、黒の枠で囲まれて表示されます。

関連ページ

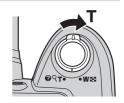
記録データのファイル名とフォルダー名→131

画像の編集

✂ トリミング（画像の一部を切り抜く）

拡大表示（□64）中にMENU:✂マークが表示されている画像は、液晶モニターに表示している部分だけにトリミング（切り抜き）できます。トリミングした画像は、元の画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（□61）でズームレバーを**T**（Q）方向に回して、画像を拡大表示する

- 縦位置画像は、左右の黒い帯が見えなくなるまで画像を拡大するとトリミングできますが、トリミング画像は横位置になります。縦位置のトリミング画像を作るには［**画像回転**］（□73）で横位置にしてからトリミングし、再度トリミング画像を縦位置に戻します。

2 切り抜きたい部分だけが表示されるように調節する

- ズームレバーを**T**（Q）または**W**（▦）方向に回して拡大率を調節します。
- マルチセレクターの▲▼◀ ▶を押して表示範囲を移動します。

3 MENUボタンを押す

4 マルチセレクターで［はい］を選び、OK ボタンを押す

- トリミング画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］を選び、OK ボタンを押します。

画像サイズについて

切り抜く範囲が狭くなるほど、トリミングで作成した画像の画像サイズ（ピクセル数）は小さくなります。トリミングして画像サイズが320 × 240または160 × 120になった画像は、再生時に黒の枠で囲まれ、再生時の画面左側にスモールピクチャーの□または□のアイコンが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□131

動画を撮影する

ハイビジョンの動画（音声付き）を撮影できます。

- 1回の撮影で記録可能な時間は、SDカードの残量が多いときでもファイルサイズが4 GBまで、または最長29分です（□84）。

1 電源をONにして、撮影画面を表示する

- 動画は、どの撮影モード（□33）を選んでいても撮影を開始できます。
- 動画設定は、撮影する動画の種類を表します。初期設定は、［720p **HD 720p（1280×720）**］です（□84）。
- 動画の撮影時は、画角（写る範囲）が静止画に比べて狭くなります。

2 フラッシュを閉じる（□7）

- フラッシュを開いていると録音の妨げになる場合があります。

3 ●（動画撮影）ボタンを押して、動画の撮影を開始する

- 液晶モニターが一度消灯した後、動画撮影が開始します。
- ピントは画面中央で合います。動画の撮影中は、AFエリアは表示されません。
- ［**動画設定**］が［720p **HD720p（1280×720）**］の場合、撮影画面の縦横比が16:9に切り換わります（右の画面の範囲で記録されます）。
- セットアップメニューの［**モニター設定**］（□110）を［**動画枠＋情報AUTO**］にすると、動画撮影開始前に動画撮影範囲の枠を画面に表示できます。
- 撮影中は、記録可能な残り時間の目安を液晶モニターで確認できます。残り時間が無くなると、撮影が自動的に終了します。

4 ●（動画撮影）ボタンを押して、撮影を終了する

動画の保存についてのご注意

撮影終了後、撮影画面に切り換わるまで、動画の保存は終了していません。**電池/SDカードカバーを開けないでください。**保存が終了する前にSDカードや電池を取り出すと、動画が記録されないことや、撮影した動画やカメラ、SDカードが壊れることがあります。

動画撮影についてのご注意

- 動画をSDカードに記録するときは、SDスピードクラスがClass 6以上のSDカードをおすすめします（□130）。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。
- 電子ズームを使うと、画質は劣化します。電子ズームを使わずに動画撮影を開始したときは、ズームレバーまたはサイドズームレバーを**T**方向に操作し続けると、光学ズームの最大倍率でズームが止まります。いったんズームレバーから指をはなして、もう一度**T**方向に操作すると電子ズームが作動します。
- 電子ズームは、動画撮影を終了するとキャンセルされます。
- ズームレバーなどの操作音やズーム、オートフォーカス、明るさが変化したときの絞り制御などの動作音が録音されることがあります。
- 動画の撮影では、液晶モニターにスミア（□127）が発生すると、記録される動画にもスミアの影響が残ります。スミアの影響を避けるため、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。
- 撮影距離やズーム倍率によっては、動画の撮影時や再生時、同じパターンを繰り返す被写体（布地や建物の格子窓など）に色の着いた縞模様（干渉縞、モアレ）が現れることがあります。これは被写体の模様と撮像素子の配列が干渉すると起きる現象で故障ではありません。
- カメラを使った直後は、カメラや電池、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

オートフォーカスについてのご注意

- 動画メニューの［**AFモード**］が AF-S［**シングルAF**］（初期設定）の場合、●（動画撮影）ボタンで撮影を開始したときに、ピントは固定されます（□85）。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□25）では、ピント合わせができないことがあります。このような被写体を動画で撮影するときは、以下の方法をお試しください。
  1. 撮影前に動画メニューの［**AFモード**］を AF-S［**シングルAF**］（初期設定）にする。
  2. 同じ距離にある別の被写体を画面中央に配置して●（動画撮影）ボタンを押し、動画撮影を開始してから構図を変える。

動画撮影で使える機能

- 露出補正、ホワイトバランス、またはピクチャーカラーの設定も撮影する動画に反映します。マクロモードのときは、より被写体に近づいて動画を撮影できます。動画の撮影を開始する前に設定を確認してください。
- セルフタイマーを設定し、●（動画撮影）ボタンを押すと、10秒経過後にピントを合わせてから動画撮影が開始します。
- フラッシュは発光しません。
- 動画の撮影を開始する前にMENUボタンを押して、（動画）タブを選ぶと動画メニューの設定ができます（82）。
- 動画撮影時の手ブレ補正は、動画メニューの［**電子式手ブレ補正**］（85）で設定します。

動画撮影の設定を変える

動画メニューで以下の設定ができます。

動画設定 □84

撮影する動画の種類を選びます。

AFモード □85

動画撮影時のオートフォーカスの方法を選びます。

電子式手ブレ補正 □85

動画を撮影するときの電子式手ブレ補正を設定します。

風切り音低減 □86

動画の撮影時に風切り音を低減するかどうかを設定します。

解像感補正 □86

動画の撮影時に解像感の補正をするかどうかを設定します。

動画メニューの表示方法

1 撮影画面を表示して MENU ボタンを押す

- メニュー画面になります。

- らくらくオート撮影モード、シーンモード、ベストフェイスモードの場合は、マルチセレクター（□11）の◀を押して、タブを表示します。

2 マルチセレクターの◀を押す

- タブが選べるようになります。

動画の撮影と再生

3 ▲▼を押して🎥タブを選ぶ

4 ▶または®を押す

- 動画メニューの項目が選べるようになります。
- メニューの選択と設定にはマルチセレクターを使います（□11）。
- 動画メニューを終了するには、MENUボタンを押すか、◀を押して他のタブを選びます。

動画設定

撮影画面を表示する ➔ MENU ➔ 🎥（動画メニュー）（📖82）➔ 動画設定

撮影する動画の種類を選びます。

種類	内容
720P HD 720p（1280×720）（初期設定）	ハイビジョン画質で縦横比16:9の動画を記録します。ワイドテレビで再生するのに適しています。 • 解像度：1280 × 720 ピクセル • ビットレート：約 9 Mbps
iFrame iFrame 540（960×540）	縦横比16:9の動画を記録します。Apple Inc.がサポートするフォーマットのひとつです。 内蔵メモリーで撮影するときは、絵柄によっては撮影が途中で終了することがあります。大切な撮影ではSDカード（Class 6以上）の使用をおすすめします。 • 解像度：960 × 540 ピクセル • ビットレート：約 24 Mbps
VGA VGA（640×480）	縦横比4:3の動画を記録します。 • 解像度：640 × 480 ピクセル • ビットレート：約 3 Mbps

- ビットレートは、1秒間あたりの動画のデータ量です。撮影する被写体により、ビットレートが自動的に変わる「VBR記録方式」を採用しています。動きの多い被写体を記録した場合は、ファイルサイズが大きくなります。
- 撮影フレーム数は、いずれの設定も約30フレーム/秒です。

動画の記録可能時間

種類	内蔵メモリー（約102 MB）	SDカード（4 GB）※
720P HD 720p（1280×720）（初期設定）	1分32秒	約55分
iFrame iFrame 540（960×540）	34秒	約15分
VGA VGA（640×480）	4分22秒	約2時間30分

数値はおおよその目安です。同じ容量でもSDカードの種類や撮影した動画のビットレートによって記録可能時間は異なります。

※ 1回の撮影で記録可能な時間は、SDカードの残量が多いときでもファイルサイズ4 GBまで、または最長29分までです。撮影時の画面には、1回の撮影で記録可能な時間が表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名➞📖131

AFモード

撮影画面を表示する ➔ MENU ➔ 🎥（動画メニュー）（📖82）➔ AFモード

動画撮影時のオートフォーカスの方法を選びます。

設定	内容
AF-S シングルAF **（初期設定）**	●（🎥動画撮影）ボタンで撮影を開始したときのピントに固定します。 撮影中に被写体との距離があまり変化しない撮影に適しています。
AF-F 常時AF	動画撮影中、ピント合わせを繰り返します。 撮影中に被写体との距離が変化する撮影に適しています。 ピントを合わせる動作音が録音されることがあります。動作音が気になるときは、［**シングルAF**］での撮影をおすすめします。

電子式手ブレ補正

撮影画面を表示する ➔ MENU ➔ 🎥（動画メニュー）（📖82）➔ 電子式手ブレ補正

動画撮影時の電子式手ブレ補正を設定します。

設定	内容
ON **（初期設定）**	動画撮影時に手ブレの影響を軽減します。
OFF OFF	電子式手ブレ補正をしません。

電子式手ブレ補正を［**ON**］にすると、動画撮影開始時に、画面にが表示されます（📖8）。

風切り音低減

撮影画面を表示する ➔ MENU ➔ 🎥（動画メニュー）（□82）➔ 風切り音低減

動画の撮影時に風切り音を低減するかどうかを設定します。

設定	内容
ON	マイクに吹きつける風の音を抑えて記録します。強風時の撮影に適しています。再生時に風切り音以外の音声が聞こえにくくなる場合があります。
OFF OFF（初期設定）	風切り音を低減しません。

風切り音低減の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。［**OFF**］のときは何も表示されません。

解像感補正

撮影画面を表示する ➔ MENU ➔ 🎥（動画メニュー）（□82）➔ 解像感補正

動画の撮影時に解像感の補正をするかどうかを設定します。

設定	内容
AUTO（初期設定）	解像感を自動で補正します。被写体の輪郭などをくっきりと撮影できます。被写体が暗い場合など、条件によっては効果が得られない場合があります。
OFF	解像感の補正を行いません。

被写体の明るさが大きく変化する場所では、［**OFF**］にしたほうが、適している場合があります。設定を変えて試し撮りをすることをおすすめします。

動画を再生する

1コマ表示（□26）で動画設定（□84）のアイコンが表示されている画像が動画です。Ⓚボタンを押すと、再生できます。

再生中は、ズームレバー**T**/**W**で音量を調節できます。画面上部には操作パネルが表示されます。マルチセレクターの◀ ▶で操作パネルのアイコンを選び、Ⓚボタンを押すと、以下の操作ができます。

機能	アイコン		内容
巻き戻し	⏪		Ⓚボタンを押している間、巻き戻します。
早送り	⏩		Ⓚボタンを押している間、早送りします。
一時停止	⏸		Ⓚボタンを押すと、一時停止します。一時停止中に画面上部の操作パネルのアイコンで、以下の操作ができます。
		◀II	Ⓚボタンを押すと、1コマ戻ります。押し続けると、連続してコマ戻しします。
		II▶	Ⓚボタンを押すと、1コマ進みます。押し続けると、連続してコマ送りします。
		▶	Ⓚボタンを押すと、再生を再開します。
		✂	Ⓚボタンを押すと、動画の必要な部分だけを切り出して保存します（□88）。
再生終了	■		Ⓚボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。

✔ 動画再生について

COOLPIX L120以外で撮影した動画は再生できません。

動画を削除する

1コマ表示（□61）やサムネイル表示（□62）で動画を選んで🗑ボタンを押すと、削除方法を選ぶ画面が表示されます。
詳しくは、「不要な画像を削除する」（□27）をご覧ください。

動画を編集する

撮影した動画の必要な部分だけを切り出し、別ファイルとして保存します。

1 編集する動画を再生して、一時停止する（□87）

2 マルチセレクターの◀▶で操作パネルの✂を選び、Ⓚボタンを押す

- 動画編集画面が表示されます。

3 ▲▼で操作パネルの✂（始点の設定）を選ぶ

- 編集開始時は、一時停止したときのフレームが始点になっています。
- マルチセレクターの◀▶で始点を必要な部分の開始位置まで移動します。
- 編集を中止するには、▲▼で↺（戻る）を選び、Ⓚボタンを押します。

4 ▲▼で✂（終点の設定）を選ぶ

- ◀▶で右端にある終点を必要な部分の終了位置まで移動します。
- ▶（プレビュー）を選び、Ⓚボタンを押すと、保存する前に指定した範囲の動画を再生して確認できます。再生中、ズームレバー **T**/**W** で音量を調節できます。プレビュー再生を停止するときは、もう一度Ⓚボタンを押します。

5 設定が完了したら、▲▼で💾［保存］を選び、Ⓚボタンを押す

6 ［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- 編集した動画が保存されます。
- 保存しないときは［**いいえ**］を選びます。

動画編集についてのご注意

- 編集で作成した動画から、もう一度動画を切り出すことはできません。ほかの範囲を切り出すときは、元の動画を選んで編集してください。
- 秒単位で動画を切り出すため、設定した始点/終点のフレームと、実際の切り出し範囲は、多少ずれることがあります。再生時間が2秒未満になる切り出しはできません。
- 内蔵メモリー/SDカードに充分な空き容量がないときは、編集できません。
- ［**動画設定**］（□84）を［**iFrame 540（960×540）**］で撮影した動画は編集できません。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□131

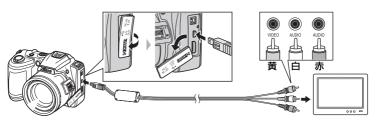
テレビに接続する

カメラをテレビに接続すると、撮影した画像をテレビ画面で再生できます。HDMI端子が付いたテレビをお持ちの場合は、市販のHDMIケーブルで接続するとハイビジョン画質で楽しめます。

1 カメラの電源をOFFにする

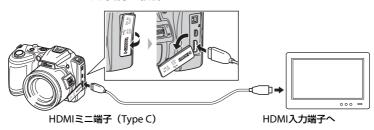
2 カメラとテレビを接続する

付属のオーディオビデオケーブルで接続する場合

黄色のプラグをテレビの映像入力端子に、白色と赤色のプラグを音声入力端子に接続してください。

市販のHDMIケーブルで接続する場合

テレビのHDMI入力端子に接続してください。

HDMIミニ端子（Type C）

HDMI入力端子へ

3 テレビの入力をビデオ入力（外部入力）に切り換える

- 詳しくはお使いのテレビの説明書をご覧ください。

4 カメラの▶ボタンを押し続けて電源をONにする

- カメラは再生モードになり、撮影した画像がテレビに表示されます。
- テレビとの接続中は、カメラの液晶モニターは消灯したままになります。

HDMI接続についてのご注意

- HDMIケーブルは付属していません。市販のものをご用意ください。カメラのHDMI出力端子は、HDMIミニ端子（Type C）です。HDMIケーブルご購入時は、ケーブルの片方がHDMIミニ端子のものをお選びください。
- HDMI端子が付いたテレビで、画像をハイビジョン画質で楽しむには、静止画の［**画像モード**］（□53）は3M［**2048×1536**］以上、動画の［**動画設定**］（□84）は720p［**HD720p（1280×720）**］にして撮影することをおすすめします。

ケーブル接続時のご注意

- ケーブルは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- カメラにオーディオビデオケーブルとHDMIケーブルを同時に接続しないでください。
- カメラにHDMIケーブルとUSBケーブルを同時に接続しないでください。

画像がテレビに映らないときは

［**セットアップ**］メニュー（□103）→［**TV出力設定**］（□118）がお使いのテレビに合っているか確認してください。

テレビのリモコンを使う（HDMI 機器制御）

HDMI-CEC規格対応テレビのリモコンで、再生中の操作ができます。
カメラのマルチセレクターやズームレバーのかわりに、画像の選択や動画の再生/停止、1コマ表示と4コマのサムネイル表示の切り換えができます。

- カメラの［**TV出力設定**］の［**HDMI 機器制御**］（□118）を［**ON**］（初期設定）にし、HDMIケーブルで接続してください。
- リモコンは、テレビに向けて操作してください。
- お使いのテレビがHDMI-CEC規格に対応しているかどうかは、テレビの説明書などでご確認ください。

パソコンに接続する

付属のUSBケーブルでカメラをパソコンに接続すると、撮影した画像をパソコンに保存できます。

カメラとパソコンを接続する前に

ソフトウェアをインストールする

付属のViewNX 2 CD-ROM で、以下のソフトウェアをパソコンにインストールしてください。
ソフトウェアのインストール方法は、簡単スタートガイドをご覧ください。

- ViewNX 2：画像の転送機能「Nikon Transfer 2」で、撮影した画像をパソコンに取り込めます。取り込んだ画像を表示したり、画像を選んで印刷したりできます。静止画や動画を編集する機能もあります。
- Panorama Maker 5：画像をつなぎ合わせてパノラマ写真を作成できます。

対応OS（オペレーティングシステム）

Windows

- Windows 7 Home Premium/Professional/Enterprise/Ultimate
- Windows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate（Service Pack 2）
- Windows XP Home Edition/Professional（Service Pack 3）

Macintosh

Mac OS X（version 10.4.11、10.5.8、10.6.5）

ハイビジョン画質の動画再生条件については、ViewNX 2のヘルプの「動作環境」をご覧ください（□96）。
対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

電源についてのご注意

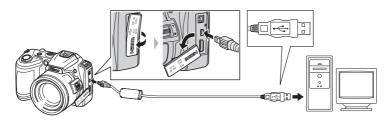
- パソコンと接続して画像を転送するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のある電池をお使いください。
- 別売のACアダプター EH-67（□129）を使用すると、家庭用コンセント（AC 100 V）からCOOLPIX L120へ電源を供給できます。EH-67以外のACアダプターは絶対に使用しないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

カメラからパソコンに画像を転送する

1 ViewNX 2をインストール済みのパソコンを起動する

2 カメラの電源をOFFにする

3 付属のUSBケーブルで、カメラとパソコンを接続する

- 端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を外すときも、まっすぐに引き抜いてください。

4 カメラの電源をONにする

- 電源ランプが点灯します。カメラの液晶モニターは消灯したままになります。

USBケーブル接続についてのご注意

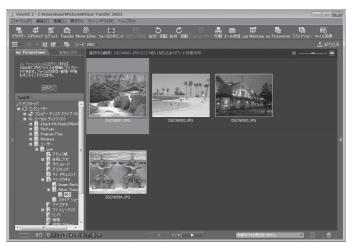
USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

5 パソコンでViewNX 2の転送機能「Nikon Transfer 2」を起動する

- **Windows 7の場合：**
  ［**デバイスとプリンター ▶L120**］画面が表示されたら、［**画像とビデオのインポート**］の下の［**プログラムの変更**］をクリックします。［**プログラムの変更**］ダイアログで［**画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2使用**］を選び、［**OK**］をクリックします。
  ［**デバイスとプリンター ▶L120**］画面で［**画像ファイルを取り込む**］をダブルクリックします。
- **Windows Vista の場合：**
  ［**自動再生**］ダイアログが表示されたら、［**画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2 使用**］をクリックします。
- **Windows XP の場合：**
  起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面が表示されたら、［**Nikon Transfer 2 画像ファイルを取り込む**］を選び、［**OK**］をクリックします。
- **Mac OS Xの場合：**
  ViewNX 2のインストールで、［**自動起動の設定**］を［**はい**］にした場合は、カメラを接続するとNikon Transfer 2 が自動起動します。
- Nikon Transfer 2を手動で起動するには➞96
- SDカード内に大量の画像があると、Nikon Transfer 2 の起動に時間がかかる場合があります。

6 オプションエリアの［**転送元**］パネル内に、接続したカメラ名のデバイスボタンが表示されていることを確認し、［**転送開始**］ボタンをクリックする

- パソコンに転送されていないすべての画像が転送されます（ViewNX 2 の初期設定）。

- 転送が終わると、ViewNX 2の画面が開き（ViewNX 2の初期設定）、転送した画像が表示されます。

- ViewNX 2の操作方法については、ViewNX 2のヘルプをご覧ください（□96）。

カメラとパソコンの接続を外すときは

- 転送中は、電源をOFFにしたり、カメラとパソコンの接続を外したりしないでください。
- 接続を外すときは、カメラの電源をOFFにしてから、USBケーブルを外してください。

転送に市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットを使う

SD カード内の画像は、市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットを使っても、ViewNX 2の転送機能「Nikon Transfer 2」で転送できます。

- カードリーダーなどの機器が、お使いのSDカードに対応しているかご確認ください。
- カードリーダーまたはカードスロットにSD カードを入れ、手順5（□94）以降を参照して、画像を転送してください。
- 内蔵メモリーに記録したデータは、カメラでSDカードにコピーしてから（□74）転送してください。

ViewNX 2を手動で起動するには

- Windows：［**スタート**］から［**すべてのプログラム**］→［**ViewNX 2**］→［**ViewNX 2**］の順にクリックします。デスクトップの［**ViewNX 2**］のショートカットアイコンをダブルクリックしても起動できます。
- Mac OS X：［**アプリケーション**］フォルダーを開き、［**Nikon Software**］→［**ViewNX 2**］の順にフォルダーを開き、［**ViewNX 2**］アイコンをダブルクリックします。Dockの［**ViewNX 2**］アイコンをクリックしても起動できます。

Nikon Transfer 2を手動で起動するには

Nikon Transfer 2は、ViewNX 2を起動し、画面上部の［**Transfer**］アイコン、または［**ファイル**］メニューから［**Transferを起動**］をクリックして起動します。

ViewNX 2またはNikon Transfer 2の詳しい使い方（ヘルプ）を見るには

ViewNX 2またはNikon Transfer 2を起動して、メニューバーの［**ヘルプ**］→［**ViewNX 2ヘルプ**］を選ぶと、ヘルプ画面を表示して詳しい使い方を見ることができます。

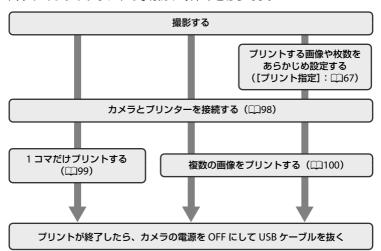
パノラマ写真に合成するには（Panorama Maker 5）

- シーンモードの［**パノラマアシスト**］機能（□44）を使って撮影した画像を、Panorama Maker 5を使ってパノラマ写真に合成できます。
- Panorama Maker 5は、付属のViewNX 2 CD-ROMでインストールできます。
- Panorama Maker 5をインストールしたら、次のように起動します。
  Windows：［**スタート**］から［**すべてのプログラム**］→［**ArcSoft Panorama Maker 5**］→［**Panorama Maker 5**］の順にクリックします。
  Mac OS X：［**アプリケーション**］フォルダーを開き、［**Panorama Maker 5**］をダブルクリックします。
- Panorama Maker 5の使い方は、Panorama Maker 5の操作画面やヘルプをご覧ください。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□131

プリンターに接続する

PictBridge（□144）対応プリンターをお使いの場合は、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接つないでプリントできます（ダイレクトプリント）。ダイレクトプリントの手順は、以下のとおりです。

電源についてのご注意

- プリンターと接続するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のある電池をお使いください。
- 別売のACアダプター EH-67（□129）を使用すると、家庭用コンセント（AC 100 V）からCOOLPIX L120へ電源を供給できます。EH-67以外のACアダプターは絶対に使用しないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

画像のプリント方法について

SDカードに記録した画像は、パソコンに転送したり、カメラをプリンターに接続してプリントする他に以下の方法でプリントできます。

- カードスロットが付いたDPOF対応プリンターでプリントする。
- プリントサービス店にプリントを依頼する。

これらの方法でプリントするときは、プリントする画像やプリント枚数などを、再生メニューの［**プリント指定**］を使って、あらかじめSDカードに設定できます（□67）。

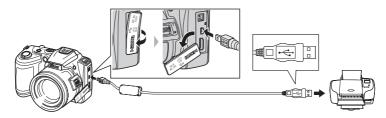
カメラとプリンターを接続する

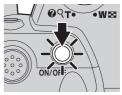
1 カメラの電源をOFFにする

2 プリンターの電源をONにする

- プリンターの設定を確認します。

3 付属のUSBケーブルで、カメラとプリンターを接続する

- 端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を外すときも、まっすぐに引き抜いてください。

4 カメラの電源をONにする

- 正しく接続されると、カメラの液晶モニターに［**PictBridge**］画面（①）が表示された後、［**プリント画像選択**］画面（②）が表示されます。

1コマだけプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（□98）、以下の手順でプリントしてください。

1 マルチセレクターでプリントする画像を選び、ⓚボタンを押す

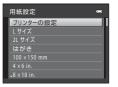
- ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に、**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に切り換わります。

2 ［**プリント枚数設定**］を選び、ⓚボタンを押す

3 プリント枚数（9枚まで）を設定し、ⓚボタンを押す

4 ［**用紙設定**］を選び、ⓚボタンを押す

5 用紙サイズを選び、ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

6 ［**プリント実行**］を選び、Ⓚボタンを押す

7 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順1の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

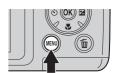
プリント中の枚数/総枚数

テレビ、パソコン、プリンターとの接続

複数の画像をプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（□98）、以下の手順でプリントしてください。

1 ［**プリント画像選択**］画面が表示されたら、MENUボタンを押す

- ［**プリントメニュー**］画面が表示されます。

2 マルチセレクターで［**用紙設定**］を選び、Ⓚボタンを押す

- プリントメニューを終了したいときは、MENUボタンを押します。

3 用紙サイズを選び、Ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

4 ［プリント選択］、［全画像プリント］または［DPOFプリント］を選んで、Ⓚボタンを押す

プリント選択

プリントする画像（最大99コマまで）と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定できます。

- マルチセレクターの◀ ▶を押して画像を選び、▲▼ を押してプリント枚数を設定します。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を 0 にすると、その画像の選択を解除できます。
- ズームレバーを **T**（Q）方向に回すと 1 コマ表示に、ズームレバーを **W**（▦）方向に回すと 12 コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したら Ⓚ ボタンを押します。
- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。［**キャンセル**］を選んでⓀボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

全画像プリント

SDカードまたは内蔵メモリー内のすべての画像を1枚ずつプリントできます。

- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。［**キャンセル**］を選んでⓀボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

DPOFプリント

［**プリント指定**］（□67）であらかじめ指定しておいた画像をプリントできます。

- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。［**キャンセル**］を選んでⓀボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。
- ［**画像の確認**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、どの画像をプリント指定したか確認できます。もう一度 Ⓚ ボタンを押すと、画像のプリントが始まります。

5 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

テレビ、パソコン、プリンターとの接続

用紙設定について

用紙設定画面では、［**プリンターの設定**］以外に、［**L サイズ**］、［**2L サイズ**］、［**はがき**］、［**100×150 mm**］、［**4×6 in.**］、［**8×10 in.**］、［**Letter**］、［**A3 サイズ**］、［**A4 サイズ**］のうち、プリンターが対応している用紙サイズを表示します。

セットアップメニュー

セットアップメニューで以下の設定ができます。

オープニング画面 □105

カメラの電源をONにしたときに、液晶モニターにオープニング画面を表示するかどうかを設定します。

地域と日時 □106

内蔵時計を合わせます。

モニター設定 □110

モニター表示設定、撮影後の画像表示または画面の明るさを設定します。

デート写し込み □112

撮影日時を画像に写し込む設定ができます。

手ブレ補正 □113

静止画を撮影するときの手ブレ補正を設定します。

モーション検知 □114

静止画の撮影時に被写体ブレや手ブレを軽減する「モーション検知」機能を設定します。

AF補助光 □115

AF補助光の点灯/非点灯を設定します。

操作音 □115

操作音について設定します。

オートパワーオフ □116

節電のために液晶モニターが消灯するまでの時間を設定します。

メモリーの初期化/カードの初期化（フォーマット） □117

内蔵メモリー /SDカードを初期化します。

言語/Language □118

画面に表示する言語を設定します。

TV出力設定 □118

テレビとの接続に必要な設定をします。

目つぶり検出設定 □119

顔認識撮影したときに、目つぶりを検出するかどうかを設定します。

設定クリアー □121

各種設定を初期設定に戻します。

電池設定 □123

使用する電池の種類を設定します。

バージョン情報 □124

ファームウェアの情報を表示します。

セットアップメニューの表示方法

1 MENUボタンを押す

- メニュー画面になります。
- らくらくオート撮影モード、シーンモード、ベストフェイスモードの場合は、マルチセレクター（□11）の◀を押して、タブを表示します。

2 マルチセレクターの◀を押す

- タブが選べるようになります。

3 ▲▼を押してYタブを選ぶ

4 ▶またはOKボタンを押す

- セットアップメニューの項目が選べるようになります。
- メニューの選択と設定にはマルチセレクターを使います（□11）。
- セットアップメニューを終了するには、MENUボタンを押すか、◀を押して他のタブを選びます。

オープニング画面

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）に切り換える（□104）➔ オープニング画面

カメラの電源をONにしたときに、液晶モニターにオープニング画面を表示するかどうかを設定します。

なし（初期設定）

オープニング画面を表示しないで、撮影または再生画面を表示します。

COOLPIX

オープニング画面を表示してから、撮影または再生画面を表示します。

撮影した画像

撮影した画像をオープニング画面として表示します。画像選択の画面が表示されたら画像を選び（□72）、OKボタンを押して登録します。

- 登録した画像はカメラに記憶されるため、元画像を削除しても、オープニング画面に残ります。
- ［**画像モード**］（□53）を ［**4224 × 2376**］または ［**1920 × 1080**］にして撮影した画像、およびスモールピクチャー（□77）やトリミング（□78）で作成した画像サイズ320 × 240以下の画像は登録できません。

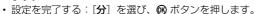
地域と日時

MENUボタンを押す ➔ ¥（セットアップメニュー）に切り換える（□104）➔ 地域と日時

カメラに内蔵された時計を設定します。

日時の設定

内蔵時計の日付と時刻を設定します。
表示される設定画面で、マルチセレクターを使って設定します。

- 項目を選ぶ：▶ または ◀ を押します（[**年**]、[**月**]、[**日**]、[**時**]、[**分**] に切り換わります）。
- 項目の内容を合わせる：▲ または ▼ を押します。
- 設定を完了する：[**分**] を選び、OK ボタンを押します。

日付の表示順

日付の表示順を［**年/月/日**］、［**月/日/年**］、［**日/月/年**］から選べます。

タイムゾーン

自宅（⌂）のタイムゾーン（地域）や夏時間（サマータイム）を設定します。また、訪問先（✈）のタイムゾーンを登録すると、自宅（⌂）との時差（□109）を自動的に計算し、撮影日時を現地時間で記録できます。海外旅行などに便利です。

時差のある地域で使うには

1 マルチセレクターで［**タイムゾーン**］を選び、Ⓚボタンを押す

- ［**タイムゾーン**］画面が表示されます。

2 ［✈ **訪問先**］を選び、Ⓚボタンを押す

- 訪問先の時計に切り換わります。

3 ▶を押す

- 地域の設定画面が表示されます。

4 ◀または▶を押して、訪問先の地域（タイムゾーン）を選ぶ

- 夏時間（サマータイム）が現在実施されている地域で使うときは、▲を押して夏時間の設定をオンにします。設定をオンにすると、画面上部に夏時間マークが表示され、時計が1時間進みます。オフにするときは、▼を押してください。
- Ⓚボタンを押して、訪問先を決定します。
- 訪問先の時計に設定しているときは、撮影時の画面に✈マークが表示されます。

カメラに関する基本設定

時計用電池について

カメラの内蔵時計は、カメラに入れる電池とは別の時計用電池で動いています。カメラに電池を入れるかACアダプターを接続すると、時計用電池が約10時間で充電され、数日間、設定した日時を記憶できます。

（自宅）の設定について

- 自宅のタイムゾーンに戻すには、手順2で［**自宅**］を選び、ボタンを押してください。
- 自宅のタイムゾーンを変更するには、手順2で［**自宅**］を選び、［**訪問先**］と同様の手順でタイムゾーンを変更してください。

夏時間の設定について

夏時間（サマータイム）が始まったときや終わったときは、手順4の地域設定画面で、夏時間のオンとオフを切り換えてください。

日付を画像に写し込むには

日時を設定した後に、セットアップメニューの［**デート写し込み**］（112）で設定します。［**デート写し込み**］を設定して撮影すると、撮影日時を画像に写し込んで記録できます。

タイムゾーンについて

時差とタイムゾーンの関係は以下の表をご覧ください。
この表にない時差は、正しい時刻を［**日時の設定**］で合わせてください。

時差 +/−	タイムゾーン	時差 +/−	タイムゾーン
−20	Midway, Samoa（ミッドウェー、サモア）	−8	Madrid, Paris, Berlin（マドリード、パリ、ベルリン）
−19	Hawaii, Tahiti（ハワイ、タヒチ）	−7	Athens, Helsinki, Ankara（アテネ、ヘルシンキ、アンカラ）
−18	Alaska, Anchorage（アラスカ、アンカレッジ）	−6	Moscow, Nairobi, Riyadh, Kuwait, Manama（モスクワ、ナイロビ、リヤド、クウェート、マナマ）
−17	PST (PDT): Los Angeles, Seattle, Vancouver（ロサンゼルス、シアトル、バンクーバー）	−5	Abu Dhabi, Dubai（アブダビ、ドバイ）
−16	MST (MDT): Denver, Phoenix（デンバー、フェニックス）	−4	Islamabad, Karachi（イスラマバード、カラチ）
−15	CST (CDT): Chicago, Houston, Mexico City（シカゴ、ヒューストン、メキシコシティー）	−3.5	New Delhi（ニューデリー）
−14	EST (EDT): New York, Toronto, Lima（ニューヨーク、トロント、リマ）	−3	Colombo, Dhaka（コロンボ、ダッカ）
−13.5	Caracas（カラカス）	−2	Bangkok, Jakarta（バンコク、ジャカルタ）
−13	Manaus（マナウス）	−1	Beijing, Hong Kong, Singapore（北京、香港、シンガポール）
−12	Buenos Aires, Sao Paulo（ブエノスアイレス、サンパウロ）	±0	Tokyo, Seoul（東京、ソウル）
−11	Fernando de Noronha（フェルナンド・デ・ノローニャ）	+1	Sydney, Guam（シドニー、グアム）
−10	Azores（アゾレス）	+2	New Caledonia（ニューカレドニア）
−9	London, Casablanca（ロンドン、カサブランカ）	+3	Auckland, Fiji（オークランド、フィジー）

モニター設定

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）に切り換える（📖104）➔ モニター設定

以下の項目を設定します。

モニター表示設定

撮影、再生時の画面に表示される情報について設定します。→📖111

撮影後の画像表示

- ［**ON**］（初期設定）：撮影直後に、撮影した画像を表示してから撮影画面に戻ります。
- ［**OFF**］：撮影直後に、撮影した画像を表示しません。

画面の明るさ

画面の明るさを5段階で調節できます。初期設定は［**3**］です。

[モニター表示設定]について

画面に情報を表示するかどうかを設定します。

液晶モニターの表示内容については→ 📖8、9

	撮影時	再生時
情報ON		
情報AUTO (初期設定)	[**情報ON**]と同じ情報を表示した後、操作しない状態が数秒経過すると[**情報OFF**]と同じ表示になります。操作すると、再び情報を表示します。	
情報OFF		
方眼＋ 情報AUTO	[**情報AUTO**]の表示内容に加えて、構図を決める際の参考となる格子線を表示します。動画撮影中は表示しません。	[**情報AUTO**]と同じです。
動画枠＋ 情報AUTO	[**情報AUTO**]の表示内容に加えて、動画撮影開始前に動画撮影範囲の枠を画面に表示します。	[**情報AUTO**]と同じです。

デート写し込み（日付の写し込み）

MENUボタンを押す → Y（セットアップメニュー）に切り換える（□104）→ デート写し込み

撮影時に日時を画像に写し込んで記録できます。日付の印字（□69）に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。

DATE 年・月・日

画像に日付を写し込みます。

年・月・日・時刻

画像に日付と時刻を写し込みます。

OFF OFF（初期設定）

日付、時刻のどちらも写し込みません。

デート写し込みの設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。[**OFF**] のときは何も表示されません。

デート写し込みについてのご注意

- 一度写し込まれた日時を画像から消したり、撮影した後で日時を写し込むことはできません。
- 以下の場合は、日付を写し込めません。
  - シーンモードの［**ミュージアム**］、［**パノラマアシスト**］または［**ペット**］で［**連写**］にしたとき
  - スポーツ連写モードのとき
  - 連写の設定（□57）が［**連写**］または［**BSS**］のとき
  - 動画のとき
- ［**画像モード**］（□53）が VGA［**640×480**］の画像にデート写し込みを行うと、写し込んだ日付が読みづらいことがあります。画像モードは PC［**1024×768**］以上に設定してください。
- 年月日の並びは、［**地域と日時**］（□16、106）での設定と同じになります。

「デート写し込み」と「プリント指定」について

日付や撮影情報の印字が可能なDPOF対応のプリンターでプリントするときは、［**デート写し込み**］で日時を写し込んでいない画像でも、［**プリント指定**］（□67）で撮影日時や撮影情報をプリントするように設定できます。

手ブレ補正

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）に切り換える（□104）➔ 手ブレ補正

静止画を撮影するときの手ブレ補正を設定します。望遠側での撮影やスローシャッターでの撮影時に起こりがちな手ブレを補正します。三脚などでカメラを固定して静止画を撮影するときは、手ブレ補正を［**OFF**］にしてください。

ON（ハイブリッド）

イメージセンサーシフト方式で手ブレを光学的に補正し、さらに以下の条件になると、画像処理による電子式手ブレ補正を加えて記録します。
- フラッシュを発光しないとき
- シャッタースピードが 1/60 秒より低速のとき
- ［**セルフタイマー**］が OFF のとき
- ［**連写**］の設定が［**単写**］のとき
- ISO 感度が 200 以下のとき

ON（初期設定）

イメージセンサーシフト方式で手ブレを補正します。

OFF OFF

手ブレ補正をしません。

手ブレ補正の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8、21）（［**OFF**］のときは、何も表示されません）。

手ブレ補正についてのご注意

- カメラの電源をONにした直後、または再生モードから撮影モードに切り換えた直後は、液晶モニターの画像が安定してから撮影してください。
- 手ブレ補正の原理上、撮影直後に液晶モニターの画像がずれて見えることがあります。
- 手ブレ補正機能を設定しても、撮影状況によっては手ブレを完全に補正できないことがあります。
- ブレが極端に小さいときや大きいときは、［**ON（ハイブリッド）**］に設定しても電子式手ブレ補正で画像補正できないことがあります。
- シャッタースピードが速いとき、または極端に遅いときは、［**ON（ハイブリッド）**］に設定しても電子式手ブレ補正は作動しません。
- ［**ON（ハイブリッド）**］で電子式手ブレ補正が作動するときは、撮影すると自動的にシャッターを2回きって画像補正をするため、通常よりも画像の記録に時間がかかります。［**シャッター音**］（□115）が鳴るのは1回目のみです。記録する画像は1コマです。

動画の手ブレ補正について

動画撮影時の手ブレ補正は、動画メニュー（□82）の［**電子式手ブレ補正**］（□85）で設定します。

モーション検知

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）に切り換える（□104）➔ モーション検知

静止画の撮影時に被写体ブレや手ブレを軽減する「モーション検知」機能を設定します。

AUTO（初期設定）

カメラが被写体の動きや手ブレを検知すると、ブレを軽減するためにISO感度を上げてシャッタースピードを速くします。
ただし、以下の場合は、モーション検知は作動しません。

- フラッシュが（強制発光）のとき
- （オート）撮影モードで［**ISO 感度設定**］（□58）の ISO 感度を固定したとき
- ［**マルチ連写**］（□57）のとき
- 以下のシーンモードのとき：［**夜景ポートレート**］（□37）、［**トワイライト**］（□38）、［**夜景**］（□39）、［**ミュージアム**］（□40）、［**打ち上げ花火**］（□41）、［**逆光**］（□41）、［**ペット**］（□43）
- スポーツ連写モードのとき（□48）

OFF

モーション検知をしません。

モーション検知の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。
カメラがブレを検知してシャッタースピードを速くしたときは、モーション検知表示は緑色に変わります。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

モーション検知についてのご注意

- モーション検知を設定しても、撮影状況によっては手ブレや被写体ブレを完全に軽減できないことがあります。
- 極端にブレている場合や、暗すぎるときは、モーション検知が作動しないことがあります。
- 撮影した画像が多少ざらつくことがあります。

AF補助光

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）に切り換える（□104）➔ AF補助光

暗い場所などでオートフォーカスによるピント合わせを補助するAF補助光の点灯/非点灯を設定します。

AUTO（初期設定）

暗い場所などで自動的にAF補助光が点灯します。AF補助光が届く距離は、広角側で約6.0 m、望遠側で約3.0 mです。
ただし、［**AUTO**］に設定していても、一部のシーンモードではAF補助光が点灯しません（□36～43）。

OFF

AF補助光は点灯しません。暗い場所などでピントが合いにくくなることがあります。

操作音

MENUボタンを押す ➔ Y(セットアップメニュー)に切り換える(□104) ➔ 操作音

操作音について設定します。

設定音

設定音（電子音1回：設定完了時など）、合焦音（電子音2回：ピントが合ったとき）、警告音（電子音3回：禁止動作を行ったときなど）およびオープニング音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］を設定します。

シャッター音

シャッターをきったときのシャッター音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］を設定します。
ただし、連写、BSSなどで撮影するときや、動画撮影時は、［**ON**］に設定しても、シャッター音は鳴りません。

操作音についてのご注意

シーンモードの［**ペット**］では、設定音およびシャッター音は鳴りません。

オートパワーオフ

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）に切り換える（□104）➔ オートパワーオフ

電源をONにしたまま、カメラを操作しない状態が続くと、節電のために液晶モニターが消灯して待機状態になります（□15）。
このメニューでは、カメラが待機状態に入るまでの時間を設定できます。

オートパワーオフ

無操作時に、待機状態に入るまでの時間を［**30 秒**］（初期設定）、［**1 分**］、［**5 分**］、［**30 分**］から選べます。

スリープモード

［**ON**］（初期設定）にすると、［**オートパワーオフ**］で設定している時間内でも、被写体の明るさが変化しない状態が続くと待機状態に入ります。［**オートパワーオフ**］が［**1 分**］以下のときは30秒で、［**5 分**］以上のときは1分で待機状態に入ります。

節電により液晶モニターが消灯したときは

- 待機状態では、電源ランプが点滅します。
- 待機状態が約3分続くと電源はOFFになります。
- 電源ランプの点滅中は、以下のボタンを押すと液晶モニターが再点灯します。
  → 電源スイッチ、シャッターボタン、Aボタン、▶ボタン、または●（動画撮影）ボタン

オートパワーオフの設定について

以下の場合、待機状態に入るまでの時間は固定です。
- メニュー表示中：3分
- スライドショー再生中：最大30分

メモリー /カードの初期化（フォーマット）

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）に切り換える（📖104）➔ メモリーの初期化/カードの初期化

内蔵メモリーまたはSDカードを初期化（フォーマット）します。
内蔵メモリー/SDカードを初期化すると、内蔵メモリー/SDカード内のデータはすべて削除されます。削除したデータはもとに戻せません。必要なデータは初期化する前にパソコンなどに転送してください。

内蔵メモリーの初期化

内蔵メモリーを初期化するときは、SDカードを取り出してください。セットアップメニューの項目に［**メモリーの初期化**］が表示されます。

SDカードの初期化

SDカードをカメラに入れると、SDカードを初期化できます。セットアップメニューの項目に［**カードの初期化**］が表示されます。

✔ 初期化についてのご注意

- 初期化中は、電源をOFFにしたり、電池/SDカードカバーを開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラで初めて使うときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。

言語/Language

MENUボタンを押す ➔ Ұ（セットアップメニュー）に切り換える（□104）➔ 言語/Language

画面に表示する言語を、日本語（初期設定）または英語に設定します。

TV出力設定

MENUボタンを押す ➔ Ұ（セットアップメニュー）に切り換える（□104）➔ TV出力設定

テレビとの接続に必要な設定を行います。

ビデオ出力

ビデオの出力方式を［**NTSC**］と［**PAL**］から選べます。［**NTSC**］と［**PAL**］はいずれも、アナログカラーテレビ放送の規格です。日本ではNTSC方式が、欧州ではPAL方式が主流です。

HDMI

HDMI出力時の画像の解像度を［**オート**］（初期設定）、［**480p**］、［**720p**］または［**1080i**］から選べます。［**オート**］にすると、接続するハイビジョンテレビに対応した解像度を［**480p**］、［**720p**］または［**1080i**］から自動で選んで出力します。

HDMI 機器制御

HDMI-CEC規格対応テレビにHDMIケーブルで接続したときに、テレビからの信号を受信するかどうかを設定します。［**ON**］（初期設定）にすると、テレビのリモコンを使って再生中の操作ができます。→「テレビのリモコンを使う（HDMI 機器制御）」（□91）

HDMI、HDMI-CECとは

「HDMI」とは、High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。「HDMI-CEC」とは、HDMI-Consumer Electronics Controlの略で、対応機器間での連携動作を可能にします。

目つぶり検出設定

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）に切り換える（□104）➔ 目つぶり検出設定

以下の撮影モードで顔認識撮影（□24）したときに、目つぶりを検出するかどうかを設定します。

- （らくらくオート撮影）モード
- シーンモードの［**ポートレート**］（□36）または［**夜景ポートレート**］（□37）

ON

顔認識して撮影した直後に、被写体の人物が目を閉じて写っている可能性があるとカメラが検出したときは、液晶モニターに［**目つぶり確認**］画面を表示します。
目を閉じて写っている可能性のある人物の顔が黄色い枠で囲まれます。撮影した画像を見て、撮り直すかどうかを確認できます。
→［**目つぶり確認**］画面の操作方法（□120）

OFF（初期設定）

目つぶり検出をしません。

[目つぶり確認] 画面の操作方法

[**目つぶり確認**] 画面が表示されたときは、以下の操作ができます。
何も操作しないまま数秒経過すると、自動的に撮影画面に戻ります。

機能	操作部	内容
目つぶり検出した顔を拡大表示する	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。
1コマ表示に戻る	**W**（▦）	ズームレバーを**W**（▦）方向に回します。
表示する顔を切り換える	◀ OK ▶	複数の人物の目つぶりを検出した場合、拡大表示中に◀ ▶を押すと、拡大表示する顔が切り換わります。
撮影した画像を削除する	🗑	🗑ボタンを押します。
撮影画面に戻る	ⓚ シャッターボタン 📷 ●	ⓚボタン、シャッターボタン、📷ボタンまたは●（動画撮影）ボタンを押します。

設定クリアー

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）に切り換える（📖104）➔ 設定クリアー

［はい］を選ぶと、カメラの設定が初期設定にリセットされます。

撮影の基本機能

項目	初期設定
フラッシュモード（📖28）	AUTO
セルフタイマー（📖31）	OFF
マクロモード（📖51）	OFF
露出補正（📖32）	0.0

シーンモード

項目	初期設定
シーンメニュー（📖35）	ポートレート
料理モードの色合い調整（📖40）	中央
ペット（📖43）	連写

スポーツ連写メニュー

項目	初期設定
画像モード（📖49）	PC 1024×768
スポーツ連写（📖49）	連写 H

撮影メニュー

項目	初期設定
画像モード（📖53）	14M 4320×3240
ホワイトバランス（📖55）	オート
連写（📖57）	単写
ISO感度設定（📖58）	オート
ピクチャーカラー（📖59）	標準カラー

動画メニュー

項目	初期設定
動画設定（□84）	HD 720p（1280×720）
AFモード（□85）	シングルAF
電子式手ブレ補正（□85）	ON
風切り音低減（□86）	OFF
解像感補正（□86）	AUTO

セットアップメニュー

項目	初期設定
オープニング画面（□105）	なし
モニター表示設定（□110）	情報AUTO
撮影後の画像表示（□110）	ON
画面の明るさ（□110）	3
デート写し込み（□112）	OFF
手ブレ補正（□113）	ON
モーション検知（□114）	AUTO
AF補助光（□115）	AUTO
設定音（□115）	ON
シャッター音（□115）	ON
オートパワーオフ（□116）	30秒
スリープモード（□116）	ON
HDMI（□118）	オート
HDMI 機器制御（□118）	ON
目つぶり検出設定（□119）	OFF

その他

項目	初期設定
用紙設定（□99、100）	プリンターの設定

- ［**設定クリアー**］を行うと、ファイル番号の連番（□131）もクリアーされます。クリアー後に撮影した画像には、内蔵メモリー/SDカード内の最大ファイル番号の次の番号から連番が付けられます。ファイル番号の連番を「0001」に戻したいときは、内蔵メモリー/SDカード内の画像をすべて削除（□27）してから、［**設定クリアー**］を行ってください。
- 以下の項目は、［**設定クリアー**］を行っても初期設定には戻りません。
  撮影メニュー：
  ［**ホワイトバランス**］のプリセットマニュアルデータ（□56）
  セットアップメニュー：
  ［**オープニング画面**］として登録した画像（□105）、［**地域と日時**］（□106）、［**言語/Language**］（□118）、［**ビデオ出力**］（□118）、［**電池設定**］（□123）

電池設定

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）に切り換える（□104）➔ 電池設定

電池残量表示（□20）を正しく機能させるために、使用する電池の種類に合わせて設定してください。

アルカリ電池（初期設定）	アルカリ単3形電池（LR6）
COOLPIX（Ni-MH）	Ni-MH リチャージャブルバッテリー EN-MH2（ニッケル水素充電池）
リチウム電池	リチウム単3形電池（FR6/L91）

バージョン情報

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）に切り換える（□104）➔ バージョン情報

カメラのファームウェアのバージョン情報を表示します。

カメラのお手入れ方法

クリーニングについて

レンズ

レンズのガラス部分をクリーニングするときは、手で直接触らないように注意してください。ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。ブロアーで落ちない指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布などでガラス部分の中央から外側にゆっくりと円を描くように拭き取ってください。汚れが取れないときは、乾いた柔らかい布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭いてください。硬いもので拭くと傷が付くことがありますのでご注意ください。

液晶モニター

ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。強く拭くと破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

カメラボディー

ゴミやホコリをブロアーで吹き払い、乾いた柔らかい布などで軽く拭いてください。海辺などでカメラを使った後は、真水で湿らせてよく絞った柔らかい布で砂や塩分を軽く拭き取った後、よく乾かしてください。
ご注意：カメラ内部にゴミ、ホコリや砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

保管について

長期間カメラをお使いにならないときは、電池を取り出してください。電池を取り出す前に、電源がOFFになっていることをご確認ください。
以下の場所にカメラを保管しないようにご注意ください。

- 換気の悪い場所や湿度の高い場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の近辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所
- 湿度が60%を超える場所

取り扱い上のご注意

カメラについて

● 強いショックを与えないでください
カメラを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。故障の原因になります。また、レンズに触れたり、無理な力を加えたりしないでください。

● 水に濡らさないでください
カメラは水に濡らさないように注意してください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がサビついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えないでください
極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使用してください。

● 強い電波や磁気を発生する場所で撮影しないでください
強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください
太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こす恐れがあります。また、その際撮影された画像には、真っ白くにじみが生ずることがあります。

● 保管する際には
カメラを長期間お使いにならないときは、必ず電池を取り出してください。また、カビや故障を防ぎ、カメラを長期にわたってお使いいただけるように、月に一度を目安に電池を入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● 電池やACアダプターを取り外すときは必ず電源をOFFにしてください
電源がONの状態で、電池やACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影動作中、または記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて
- 液晶モニターの特性上、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。記録される画像には影響はありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくいことがあります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。ホコリやゴミなどが付着したときは、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合は、ガラスの破片などでケガをするおそれがありますので充分ご注意ください。また、中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

● スミアについて
明るい被写体にレンズを向けると、液晶モニターに白色または色のついた光の帯が現れることがあります。この現象は、撮像素子に強い光が入ったときに発生し、「スミア」といいます。撮像素子の特性による現象で故障ではありません。また、スミアの影響で液晶モニターに色ムラが現れることもあります。
マルチ連写、スポーツ連写と動画以外の撮影では、記録される画像にスミアの影響はありません。
マルチ連写、スポーツ連写と動画の撮影では、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。

電池について

● 充電池は、撮影前に充電する
別売のリチャージャブルバッテリーをお使いの際は、撮影前に充電してください。ご購入時にはフル充電されていないので、ご注意ください。
「別売アクセサリー」（🕮129）および別売バッテリーチャージャー MH-73付属の使用説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

● リチャージャブルバッテリーの充電について
- 型番の異なるバッテリー、残量の異なるバッテリーを混用しないでください。
- COOLPIX L120にEN-MH2を使う場合は、バッテリーチャージャー MH-73で4本同時に充電してください。MH-73以外の充電器では充電しないでください。
- MH-73でEN-MH2以外の充電池を充電しないでください。
- Ni-MHリチャージャブルバッテリー EN-MH1は使えません。

● 使用上の注意
- 長時間お使いになった電池は、発熱していることがあるので、ご注意ください。
- 電池を取り出すときは、カメラの電源をOFFにして、電源ランプと液晶モニターが消灯していることをご確認ください。
- 使用推奨期限の過ぎた電池はお使いにならないでください。
- 残量の無くなった電池をカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返さないでください。

● 予備電池を用意する
撮影の際は予備の電池をご用意ください。特に海外では、地域によって電池の入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時の電池について
電池の一般的な特性として、低温時には性能が低下します。低温時にお使いになるときは、電池やカメラを冷やさないようにしてください。

● 低温時には残量が充分な電池を使い、予備の電池を用意する
低温時に消耗した電池をお使いになると、カメラが作動しないことがあります。低温時に撮影するときは、新しい電池かフル充電した充電池を使い、保温した予備の電池を用意して温めながら交互にお使いください。低温下では一時的に性能が低下して使えなかった電池でも、常温に戻ると使えることがあります。

● 電池の接点について

電池の接点が汚れると、接触不良でカメラが作動しなくなることがあります。電池を入れる前に接点を乾いた布などで拭いてください。

● 電池の残量について

電池の特性上、残量のなくなった電池をカメラに入れると、電池の残量が充分にある状態を示す（電池残量表示が表示されない）ことがありますので、ご注意ください。

● ニッケル水素充電池について

- ニッケル水素充電池は、残量がある状態で繰り返し充電すると、メモリー効果（一時的に電池容量が低下したような特性を示す現象）によって、電池残量表示が早めに表示されることがあります。最後まで使い切ってから充電すると、正常に戻ります。
- ニッケル水素充電池は、お使いにならないときでも自然放電によって残量が減っていきます。お使いになる直前に充電することをおすすめします。

● 充電式電池のリサイクルについて

- 充電を繰り返して劣化し、使えなくなったバッテリーは、廃棄しないでリサイクルにご協力ください。端子部にテープなどを貼り付けて絶縁してから、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へご持参ください。

別売アクセサリー

充電器/充電池※1	• バッテリーチャージャー MH-73（Ni-MH リチャージャブルバッテリー EN-MH2 × 4 本付き）※2 • 交換用充電池：Ni-MH リチャージャブルバッテリー EN-MH2-B4（4 本入り）
ACアダプター	ACアダプター EH-67※2
USBケーブル	USBケーブル UC-E6※3
オーディオビデオケーブル	オーディオビデオケーブル EG-CP16※3
レンズキャップ	レンズキャップ LC-CP22※3

※1 Ni-MH リチャージャブルバッテリー EN-MH2 を COOLPIX L120 に使う場合は、バッテリーチャージャー MH-73で4本同時に充電してください。また、残量の異なるバッテリーを混用しないでください（□127）。Ni-MH リチャージャブルバッテリー EN-MH1は使えません。

※2 日本国内専用電源コード（AC 100 V対応）付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。
また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）http://shop.nikon-image.com/ でもお求めいただけます。

※3 カメラご購入時に付属（→「簡単スタートガイド」3ページ）。

推奨SDカード

下記のSDカードの動作を確認しています。

- 動画の撮影には、SDスピードクラスがClass 6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。

	SDメモリーカード	SDHCメモリーカード※2	SDXC メモリーカード※3
SanDisk	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
TOSHIBA	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
Panasonic	2 GB※1	4 GB、8 GB、12 GB、16 GB、24 GB、32 GB	48 GB、64 GB
Lexar	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	–

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。

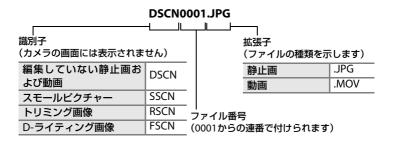
※3 SDXC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDXC規格に対応している必要があります。

- 上記SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、カードメーカーにお問い合わせください。その他のメーカー製のSDカードは、動作の保証をいたしかねます。

記録データのファイル名とフォルダー名

このカメラで撮影した静止画および動画ファイルには、以下のようなファイル名が付けられます。

編集していない静止画および動画	DSCN
スモールピクチャー	SSCN
トリミング画像	RSCN
D-ライティング画像	FSCN

静止画	.JPG
動画	.MOV

- ファイルを保存するフォルダーは、「フォルダー番号＋NIKON」（例：100NIKON）という名前で、自動的に作られます。フォルダー内のファイル数が200に達すると、新しいフォルダーが作られます（例：100NIKON→101NIKON）。フォルダー内のファイル番号が9999に達したときも新しいフォルダーが作られ、ファイル番号は0001に戻ります。
- パノラマアシストモード（□44）では、撮影のたびに「フォルダー番号＋P_XXX」という名前のフォルダー（例：101P_001）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。
- 画像データを内蔵メモリーとSDカードの間でコピーする場合（□74）、ファイル名は以下のようになります。
  - 「選択画像コピー」：使用中のフォルダー（または次回の撮影で使われるフォルダー）に、データがコピーされます。コピーされたデータのファイル名は、「内蔵メモリーおよびSDカード内の最大ファイル番号＋1」から連番で付けられます。
  - 「全画像コピー」：データはフォルダーごとにコピーされます。フォルダー名は「コピー先の最大フォルダー番号＋1」から連番で付けられます。ファイル名は変わりません。
- フォルダー番号が999のときにファイル数が200個またはファイル番号が9999に達すると、それ以上撮影できません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化（□117）してください。

警告メッセージ

画面に表示される警告メッセージの意味は、以下のとおりです。

表示	意味	対処法	📖
❗ レンズキャップを取り外してから、電源を入れなおしてください	レンズキャップがついているか、レンズの作動不良です。	レンズキャップが外れていることを確認してから、電源を入れ直してください。電源を入れ直してもエラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	15
🕘（点滅）	カメラの時計が設定されていません。	日付と時刻を設定してください。	106
ℹ 電池残量がありません	電池の残量がありません。	電池を交換してください。	14、123
AF●（赤色点滅）	ピントを合わせることができません。	• ピントを合わせ直してください。 • フォーカスロック撮影をお試しください。	24、25 50
ⓘ 記録中 しばらくお待ちください	画像の記録中です。	記録が終了して警告表示が消灯するまでお待ちください。	25
ℹ カードがロックされています	SDカードの書き込み禁止スイッチが「Lock」されています。	「Lock」を解除してください。	19
ⓘ このカードは使えません	SDカードへのアクセス異常です。	• 動作確認済みのカードを使ってください。 • カードの端子部分が汚れていないか確認してください。 • カードが正しく挿入されているか確認してください。	130 18 18
ⓘ カードに異常があります			
ⓘ このカードは初期化されていません。初期化しますか？ はい いいえ	SDカードが、このカメラ用に初期化されていません。	初期化するとカード内のデータはすべて削除されるため、カード内に必要なデータが残っているときは、［**いいえ**］を選び、初期化する前にパソコンなどに保存してください。［**はい**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、SDカードを初期化できます。	19
ℹ メモリー残量がありません	データを記録する空き容量がありません。	• 画像モードを変更してください。 • 不要な画像を削除してください。 • SDカードを交換してください。 • SDカードをカメラから取り出し、内蔵メモリーを使ってください。	53 27、87 18 18

表示	意味	対処法	📖
画像を保存 できません	画像記録中にエラーが発生しました。	内蔵メモリー /SD カードを初期化してください。	117
	これ以上記録できないファイル番号に達しました。	・SD カードを交換してください。 ・内蔵メモリー /SD カードを初期化してください。	18 117
	オープニング画面に登録できない画像です。	トリミングやスモールピクチャーで作成した画像で、画像サイズが320×240以下のもの、および［**画像モード**］を［**4224×2376**］または［**1920×1080**］にして撮影した画像は、登録できません。	105
	画像コピー先の容量不足です。	コピー先の不要な画像を削除してください。	27、87
この画像は編集 できません	編集できない画像を編集しようとしました。	・編集可能な条件を確認してください。 ・動画は編集できません。	75 –
動画記録 できません	SD カードに動画を記録するのに時間がかかっています。	画像記録処理の速いSDカードに交換してください。	18
撮影画像が ありません	撮影済みの画像がありません。	・内蔵メモリーに記録した画像を再生するときは、カメラから SD カードを取り出してください。 ・内蔵メモリーからSDカードにコピーする場合は、MENU ボタンを押すと画像コピー画面が表示され、内蔵メモリー内の画像をSDカードにコピーできます。	18 74
このファイルは 表示できません このデータは 再生できません	このカメラ以外で作成されたファイルです。	このカメラでは再生できません。ファイルを作成または編集したパソコンなどで再生してください。	–
表示できる画像が ありません	スライドショーで表示できる画像がありません	–	70
このファイルは 削除できません	画像にプロテクトがかかっています。	プロテクトを解除してください。	71

表示	意味	対処法	📖
🛈 自宅と訪問先が同じタイムゾーンです	自宅と訪問先を同じタイムゾーンに設定しました。	–	109
🛈 フラッシュを上げてください	フラッシュが閉じています。	シーンモードが［**夜景ポートレート**］または［**逆光**］のときは、フラッシュをポップアップして撮影してください。	28、37、41
🛈 フラッシュを閉じてください	動画撮影時にフラッシュがポップアップしています。	フラッシュを静かに閉じて撮影してください。閉じるときの音が録音されることがありますのでご注意ください。	79
ⓘ 通信エラー	プリンターとの通信中にエラーが発生しました。	カメラの電源をOFFにして、USBケーブルの接続をやり直してください。	98
システムエラー ❗	カメラの内部回路にエラーが発生しました。	電源をOFFにして電池を入れ直し、もう一度電源をONにしてください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	14
ⓘ プリンターエラー：プリンターを確認してください	プリンターに異常があります。	プリンターを確認し、エラーの原因を取り除いた後、［**継続**］を選んでⓀボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
ⓘ プリンターエラー：用紙を確認してください	指定したサイズの用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでⓀボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
ⓘ プリンターエラー：紙詰まりです	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、［**継続**］を選んでⓀボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
ⓘ プリンターエラー：用紙がありません	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでⓀボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
ⓘ プリンターエラー：インクを確認してください	インクに異常があります。	インクを確認した後、［**継続**］を選んでⓀボタンを押し、プリントを再開してください。※	–

表示	意味	対処法	📖
プリンターエラー：インクがありません	インクがなくなりました。	インクを交換した後、[**継続**] を選んでⓀボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：ファイルが異常です	プリントする画像ファイルに異常があります。	[**キャンセル**] を選びⓀボタンを押して、プリントを中止してください。	–

※ プリンターの説明書もあわせてご覧ください。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいとお感じになったときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせいただく前に、以下の項目をご確認ください。

表示・設定・電源関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
液晶モニターに何も映らない	• 電源が入っていません。 • 電池残量がありません。 • 節電機能により待機状態になっています。電源スイッチ、シャッターボタン、📷 ボタン、▶ ボタン、または ●（🎥 動画撮影）ボタンを押してください。 • フラッシュランプが点滅しているときは、フラッシュの充電中です。充電が完了するまでお待ちください。 • カメラとパソコンが USB ケーブルで接続されています。 • カメラとテレビが AV ケーブルまたは HDMI ケーブルで接続されています。	20 20 13、15 30 93 90
液晶モニターがよく見えない	• 液晶モニターの明るさを調整してください。 • 液晶モニターが汚れています。	110 125
カメラの電源が突然切れる	• 電池残量がありません。 • 無操作状態が続いたため、オートパワーオフ機能が働きました。 • 低温下ではカメラや電池が正常に動作しないことがあります。	20 116 127
撮影日時が正しく表示されない	• 日時を設定していない（撮影時に日時未設定マークが点滅している）場合は、静止画の撮影日時が「0000/00/00　00:00」、動画の撮影日時が「2011/01/01 00:00」と記録されます。セットアップメニュー［**地域と日時**］で日時を正しく設定してください。 • 内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないので、定期的に日時の設定を行うことをおすすめします。	16 106
撮影情報や画像情報が表示されない	セットアップメニュー［**モニター設定**］の［**モニター表示設定**］が［**情報OFF**］になっています。	110
［**デート写し込み**］が選べない	セットアップメニュー［**地域と日時**］が設定されていません。	16、106
［**デート写し込み**］を有効にしたのに、日付が写し込まれない	• 日付を写し込めない撮影モードになっています。 • 動画には写し込みできません。	112

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
電源を入れると地域と日時の設定画面が表示される 設定内容が初期状態に戻ってしまった	時計用電池が切れたため、設定がリセットされました。	108
液晶モニターが消灯し、電源ランプが高速点滅する	電池の温度が高温になっています。電源をOFFにして、電池の温度が下がるまでしばらく放置してからご使用ください。ランプの点滅が3分続くと電源は自動的にOFFになりますが、電源スイッチを押してもOFFにできます。	14

●デジタルカメラの特性について

きわめてまれに、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。このような場合は、電源をOFFにして電池を入れ直し、もう一度電源をONにしてみてください。これによってカメラが作動しなくなったときのデータは失われるおそれがありますが、すでに内蔵メモリーまたはSDカードに記録されているデータは失われません。この操作を行ってもカメラに不具合が続くときは、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

撮影関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
撮影できない	• 再生モードになっているときは、📷 ボタン、シャッターボタン、または ●（📹 動画撮影）ボタンを押してください。 • メニューが表示されているときは、MENU ボタンを押してください。 • 電池残量がありません。 • フラッシュランプが点滅しているときは、フラッシュの充電中です。	10、26 12 20 30
撮影モードにできない	HDMIケーブルまたはUSBケーブルを外してください。	90、93、98
ピントが合わない	• 被写体との距離が近すぎます。らくらくオート撮影モード、シーンモードの［**クローズアップ**］、またはマクロモードでの撮影をお試しください。 • オートフォーカスが苦手な被写体を撮影しています。 • セットアップメニュー［**AF 補助光**］を［**AUTO**］にしてください。 • 電源を入れ直してください。	20、34、39、51 25 115 14

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
画像がぶれる	• フラッシュを使ってください。 • ISO 感度を上げて撮影してください。 • 手ブレ補正機能やモーション検知機能を使ってください。 • BSS（ベストショットセレクター）を使ってください。 • 三脚などでカメラを安定させてください（セルフタイマーを併用すると、より効果的です）。	28 58 113、114 57 5、31
液晶モニターに光の帯や色ムラが発生する	明るい被写体にレンズを向けるとスミアが発生することがあります。マルチ連写、スポーツ連写および動画の撮影では、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。	127
フラッシュ撮影時に、画像に白い点が写り込む	フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して写り込んでいます。フラッシュモードを⊛（発光禁止）にしてください。	7、28
フラッシュが発光しない	• フラッシュモードが ⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが発光しないシーンモードになっています。 • スポーツ連写モードになっています。 • フラッシュが制限される他の機能が設定されています。	7、28 35 48 60
電子ズームが使えない	• 以下の場合は電子ズームが使えません。 - シーンモードが［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］、［**ペット**］のとき - ベストフェイスモードのとき - 撮影メニュー［**連写**］モードが［**マルチ連写**］のとき	 36、37、43 46 57
［**画像モード**］が選べない	［**画像モード**］が制限される他の機能が設定されています。	60
シャッター音が鳴らない	セットアップメニュー［**操作音**］の［**シャッター音**］が［**OFF**］になっています。［**ON**］にしていても、撮影モードや設定によってはシャッター音が鳴りません。	115
AF 補助光が点灯しない	セットアップメニュー［**AF補助光**］が［**OFF**］になっています。［**AUTO**］に設定していても、AFエリアの位置やシーンモードによっては点灯しない場合があります。	36～43、115
画像が鮮明でない	レンズが汚れています。	125
画像の色合いが不自然になる	適切なホワイトバランスまたは色合いが選ばれていません。	55
画像がざらつく	• 被写体が暗いため、シャッタースピードが遅くなっているか、ISO 感度が高くなっています。 - フラッシュを使ってください。 - 低い ISO 感度にしてください。	 28 58

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
画像が暗すぎる	• フラッシュモードが ⓈⒷ(発光禁止)になっています。 • フラッシュが指などでさえぎられています。 • 被写体にフラッシュの光が届いていません。 • 露出を補正してください。 • ISO 感度を上げてください。 • 逆光で撮影しています。シーンモードの［**逆光**］にするかフラッシュをポップアップして、フラッシュモードを ⚡（強制発光）にしてください。	7、28 22 28 32 58 28、41
画像が明るすぎる	露出を補正してください。	32
赤目以外の部分が補正された⚡◎	⚡◎（赤目軽減自動発光）や、らくらくオート撮影モード、シーンモードの［**夜景ポートレート**］の赤目軽減スローシンクロ強制発光でフラッシュ撮影すると、ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。［**夜景ポートレート**］以外のシーンモードかオート撮影モードで、フラッシュモードを⚡◎（赤目軽減自動発光）以外にして撮影してください。	34、28、37
画像の記録に時間がかかる	フラッシュを⚡◎（赤目軽減自動発光）にして撮影すると、画像の記録に時間がかかることがあります。	28
画面や撮影画像にリング状の帯や虹色の縞模様が見える	逆光撮影や、太陽などの非常に強い光源が画面内にある撮影では、リング状の帯や虹色の縞模様（ゴースト）等が写し込まれることがあります。光源の位置を変えるか、光源を画面内に入れずに撮影をお試しください。	–

再生関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
再生できない	• パソコンか他社製のカメラによって画像が上書きされたか、ファイル名やフォルダー名が変更されました。 • このカメラ以外で撮影した動画は再生できません。	– 87
画像の拡大表示ができない	• 動画やスモールピクチャー、320 × 240 以下にトリミングされた画像は拡大表示できません。 • このカメラ以外で撮影した画像は、拡大できないことがあります。	–
D-ライティング、スモールピクチャー、トリミングができない	• 動画は編集できません。 • ［**画像モード**］を 🅂［**4224 × 2376**］または 🅂［**1920 × 1080**］にして撮影した画像は、編集できません。 • D-ライティング、スモールピクチャー、トリミングが可能な条件を確認してください。 • このカメラ以外で撮影した画像は編集できません。	87 53 75 75

付録、索引

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
画像がテレビに映らない	• セットアップメニュー［**TV 出力設定**］の［**ビデオ出力**］や［**HDMI**］が正しく設定されていません。 • 画像が記録されていない SD カードが入っています。SD カードを交換してください。内蔵メモリーの画像を再生するときは SD カードを取り出してください。 • HDMI ケーブルとオーディオビデオケーブル、または HDMI ケーブルと USB ケーブルの両方が接続されています。	118 18 91
カメラをパソコンに接続しても、Nikon Transfer 2が自動起動しない	• カメラの電源が OFF になっています。 • 電池残量がありません。 • USB ケーブルが正しく接続されていません。 • パソコンにカメラが正しく認識されていません。 • Nikon Transfer 2が自動起動しない設定になっています。Nikon Transfer 2 については、ViewNX 2 のヘルプをご覧ください。 • 対応 OS を確認してください。	20 20 93 — 96 92
プリントする画像が表示されない	• 画像が記録されていない SD カードが入っています。SD カードを交換してください。 • 内蔵メモリーの画像をプリントするときは SD カードを取り出してください。	18
カメラ側で用紙設定ができない	PictBridge対応プリンターでも、以下の場合はカメラで「用紙設定」ができません。プリンター側で用紙サイズを設定してください。 • カメラ側で設定した用紙サイズにプリンターが対応していません。 • 自動的に用紙サイズを認識するプリンターを使っています。	99、100 —

主な仕様

ニコン デジタルカメラCOOLPIX L120

項目		仕様
型式		コンパクトデジタルカメラ
有効画素数		14.1メガピクセル
撮像素子		1/2.3型 原色CCD、総画素数14.48メガピクセル
レンズ		光学21倍ズーム、NIKKOR レンズ
	焦点距離	4.5-94.5mm 35mm判換算で25-525 mm相当の撮影画角
	開放F値	f/3.1-5.8
	レンズ構成	9群12枚
電子ズーム		最大4倍 35mm判換算で約2100 mm相当の撮影画角
手ブレ補正		イメージセンサーシフト方式と電子式の併用（静止画） 電子式（動画）
オートフォーカス		コントラスト検出方式
	撮影距離	• レンズ前約50 cm～∞（広角側）、約1.5 m～∞（望遠側） • マクロモード時は約1 cm（ズームのミドルポジション）～∞
	AFエリア	中央、顔認識
液晶モニター		広視野角3型TFT液晶、反射防止コート付き、約92万ドット、輝度調節機能付き（5段階）
	視野率（撮影時）	上下左右とも約97%（対実画面）
	視野率（再生時）	上下左右とも約100%（対実画面）
記録方式		
	記録媒体	内蔵メモリー（約102 MB）、SD/SDHC/SDXCメモリーカード
	画像ファイル	DCF、Exif 2.3、DPOF準拠
	ファイル形式	静止画：JPEG 動画：MOV（映像：H.264/MPEG-4 AVC、音声：AAC（ステレオ））
画像モード（記録画素数）		• 14M（高画質）［4320 × 3240★］ • 14M［4320 × 3240］ • 8M［3264 × 2448］ • 5M［2592 × 1944］ • 3M［2048 × 1536］ • PC［1024 × 768］ • VGA［640 × 480］ • 16:9［4224 × 2376］ • 16:9［1920 × 1080］

項目	仕様
ISO感度（標準出力感度）	ISO 80、100、200、400、800、1600、3200、6400、オート（ISO 80 ～800）、スポーツ連写モード時（ISO 400～3200）
露出	
測光方式	マルチパターン測光（256分割）、 中央部重点測光（電子ズームが2倍未満のとき）、 スポット測光（電子ズームが2倍以上のとき）
露出制御	プログラムオート、モーション検知機能付き、 露出補正（±2段の範囲で1/3段刻み）可能
シャッター	メカニカルシャッターとCCD電子シャッターの併用
シャッタースピード	• 1/1000 ～ 1 秒 • 4 秒（シーンモードの［**打ち上げ花火**］） • 1/4000 ～ 1/60 秒（スポーツ連写モード）
絞り	電磁駆動によるNDフィルター（-3AV）選択方式
制御段数	2（f/3.1、f/8.7［広角側］）
セルフタイマー	約10秒
フラッシュ	
調光範囲（ISO感度設定オート時）	約0.5～6.0 m（広角側）、約1.5～3.0 m（望遠側）
調光方式	モニター発光によるTTL自動調光
インターフェース	Hi-Speed USB
通信プロトコル	MTP、PTP
ビデオ出力	NTSC、PALから選択可能
HDMI	オート、480p、720p、1080iから選択可能
入出力端子	オーディオビデオ出力/デジタル端子（USB）、HDMIミニ端子（HDMI出力）、DC入力端子
言語	日本語、英語の2言語
電源	• アルカリ単 3 形電池、リチウム単 3 形電池のいずれかを各 4 本 • リチャージャブルバッテリー EN-MH2（ニッケル水素充電池）× 4 本（別売） • AC アダプター EH-67（別売）
撮影可能コマ数（電池寿命）※	• 約 330 コマ（アルカリ電池使用時） • 約 890 コマ（リチウム電池使用時） • 約 520 コマ（EN-MH2 使用時）
動画撮影可能時間（電池寿命）	• 約 3 時間 5 分（［**HD 720p**］、アルカリ電池使用時） • 約 7 時間 45 分（［**HD 720p**］、リチウム電池使用時） • 約 4 時間 25 分（［**HD 720p**］、EN-MH2 使用時）

三脚ネジ穴		1/4（ISO 1222）
寸法 （幅×高さ×奥行き）		約109.9×76.5×78.4 mm（突起部除く）
質量		約431 g （電池、SDメモリーカード含む）
動作環境		
	使用温度	0 ～ 40℃
	使用湿度	85%以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは、基本的に常温（25℃）、アルカリ単3形電池使用時のものです。リチウム電池のデータは、市販の「エナジャイザー リチウム乾電池（単3形）」使用時のものです。

※ 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格によるものです。測定条件は、23（±2）℃、撮影ごとにズーム、2回に1回の割合でのフラッシュ撮影、画像モード14M［**4320×3240**］です。撮影間隔、メニュー表示時間、画像表示時間などにより、コマ数は変動することがあります。リチウム電池の数値は、市販の「エナジャイザー リチウム乾電池（単3形）」使用時の値です。
付属の電池はお試し用の電池です。

使用説明書について

- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

このカメラの準拠規格

- Design rule for Camera File system (DCF)：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録方式です。
- DPOF (Digital Print Order Format)：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- Exif (Exchangeable image file format) Version 2.3：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。
  この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。
  詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- PictBridge：デジタルカメラとプリンターのメーカー各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接プリントするための標準規格です。

索引

マーク・英数字

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

アフターサービスについて

■この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理について、ご質問がございましたら、ニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご覧ください。

●お願い

- お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、またはニコンサービス機関にご依頼ください。

- ニコンサービス機関につきましては、「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は最寄りの販売店、またはニコンサービス機関にご相談ください。
- 修理に出されるときに、SDカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後5年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ご購入店またはニコンサービス機関へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を以下の当社ホームページでご覧いただくことができます。

http://www.nikon-image.com/support/

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行
FAX:(03)5977-7499

【お問い合わせ承り書】 太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日：　　　　年　　月　　日

お買い上げ日：　　　　年　　月　　日

製品名：　　　　シリアル番号：

フリガナ
お名前：

連絡先ご住所：□自宅　□会社
〒

TEL:
FAX:

ご使用のパソコンの機種名：
メモリー容量：　　　　ハードディスクの空き容量：
OS のバージョン：　　　　ご使用のインターフェースカード名：
その他接続している周辺機器名：
ご使用のアプリケーションソフト名：
ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：

問題が発生した時の症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度：
（おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

製品の使い方に関するお問い合わせ

＜ニコン カスタマーサポートセンター＞

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。

0570-02-8000

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9：30～18：00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、（03）5977-7499 に送信ください。

修理サービスのご案内

インターネットでの修理のお申し込み

下記 URL から「ニコン ピックアップサービス」のお申し込みができます。宅配便などでお送りいただいた場合などの「修理金額見積り」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。

http://www.nikon-image.com/support/repair/

修理品のお引き取りを依頼される場合は

＜ニコン ピックアップサービス＞

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が、梱包資材のお届け・修理品のお引き取り、修理後のお届け・集金までを一括して提供するサービスです。

0120-02-8155

営業時間：9：00～18：00（年末年始12/29～1/4を除く毎日）
※左記のフリーダイヤルは、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）にて承ります。

製品に関するお問い合わせは、上記のカスタマーサポートセンターへお願いいたします。
修理に関するお問い合わせは、下記の修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

＜（株）ニコンイメージングジャパン　修理センター＞

230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26

0570-02-8200

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9：30～17：30（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577（ニコンカスタマーサポートセンター）におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

株式会社ニコン
株式会社ニコン イメージング ジャパン

Printed in Japan

CT0L01(10)

6MM02910-01